

夜回り通信 vol 1

平成17年3月3日

1. ご支援の報告

物品 1.海苔とタオル(個人) 2. 衣類ダンボール大箱2個(学校後援会)

献金 1. AK様(卒業生) 2. 以前の炊き出し寄付金の残金(係りより)

※裏に領収書添付

これらは2月12日(土)12時から五橋公園での炊き出しで活用させていただきました。ありがとうございました。

2. 夜回りの紹介と報告(2月9日)

元寺小路教会に早い人で5時過ぎから集まって、60kgの米とぎと炊飯から準備を始めます。それを10数人で8時過ぎまでかかっておむすびにします。そして以下の5つのコース分へ、おむすびと味噌スープ、ゆで卵やホカロン、米、カセットボンベ等と炊き出しのチラシをそれぞれの山に振り分けます。そして、各コースへ3人位ずつ車で8時半過ぎに出発します。(帰着11時頃)

A 市民プール方面 B 榴ヶ岡公園方面 C 旧図書館方面 D 南小泉方面 E 駅方面
私は今回はCコースに参加しました。

どんぶりで作ったおむすび25個(一人におむすび一個と玉子二個)をリュックに詰めて炊き出しのチラシや他のものと一緒に車に入れて出発します。

旧図書館のある桜ヶ丘公園⇒福祉プラザ⇒街中の公園(名前忘れ)⇒勾当台公園が主な経路。桜ヶ丘公園は歩道橋や橋の下には、ビニールシートで囲った住まいに複数で住んでいる方が多い。旧図書館にはビニールで立派な住まいを作っている。「こんばんは。炊き出しの案内に来ました」と声をかけていきます。街中の公園では5人(内女性一人)で野宿しており自炊しているので米とボンベの補給をする。回る先々で「いつもどうもね」と頭を下げられるのが一番心痛い。勾当台公園には10年前に夜回りしたときからいたミカサさんという人が健在だった。

次回の夜回りは3月9日です。 献品等ございましたら3月8日までに覚に預けてくだされば届きますので、よろしく願いします。

1. 献品の報告

- ①海苔 MM様 (高校職員)
- ②セーター・ズボン・ジャケット類約20点 NT様 (高校職員)
- ③セーター・ズボン・シャツ類約20点 AM様 (高校職員)
- ④ズボン・シャツ類約10点 MH様 (幼稚園保護者)

これら①～③は3月9日(土)12時から五橋公園での炊き出しに提供され、雑貨コーナーに出品されました。ありがとうございました。 ※ ④は4月の炊き出しに出品させていただきます。

2. 現場では公園の中央に広く敷いたシートの上へ沢山の衣類や靴その他の雑貨を並べ、その周りをロープで仕切ります。100人以上の方が抽選で順番を決めて、番号順に仕切りの中へ入って行き、担当のボランティアにご自分の希望する品物を指差して受け取ります。皆さんがこのルールを守ります。ところが今回は、約6年ぶりに参加した私が雨男だったのか、大粒の雨が落ちてきて急きょ回収となり4月に再開となりました。持ち帰って干し、大事に保管してあります。

3. 夜回り(3月9日)報告

今回の参加も旧図書館方面だった。五橋公園隅の猫の小屋も作って暮らしている方は不在で、後で聞いたら入院中だった。夜回り・炊き出しでは病気や怪我のためでも薬を持ち歩くことはしない。歩ける人には、区役所の「保護課」の『医療券』をもらって医者を紹介してもらうことを勧める。お金や保険証がなくてもよい。対応する医療機関として多いのは市立病院の「医療相談室」である。歩くのも困難になったときは救急車を呼ぶことを勧める。但し退院しても大抵はまた路上に戻る。

福祉プラザは夜間の追い出しが掛かって不在。肴町公園の方たちに米やボンベ類を置いてから、勾当台公園へ。その後西公園へ。資材置き場の方は職を求めてよそへ行ったとのこと。橋の下は一人増えて3名になっており、そのうち一人は川原沿いの手製のハウスにいた。

歩道橋の下の方は工事中のためすぐそばに青テントを市の職員に張ってもらったと言って住んでいた。その話によると「昨日8日の朝まだ寝ていた5時頃に、近くの専門学校の寮生たち10人くらいに、三方向から一斉にテントへ石を投げつけられた。手近にあった鉄パイプを振り回して追いかけていったが、逃げていってしまった」とのことだった。これはさっそく正平協に報告し、キャップは翌日すぐに市の社会課に連絡し事実確認に向いてもらうことになった。事実ならばそれは一人のホームレスの問題にとどまらず、地域社会の安全の問題にもなるからである。

4. 炊き出し(3月12日)の報告

定期的な炊き出しは現在四つのグループが担当日を決めておこなっている。正平協(カトリック正義と平和仙台協議会)は毎月第2土曜日である。今月のこの日は前記で雨にあたられたことを報告したが、106人の野宿している方が集まった。大きいおむすび261個とバナナは一巡でたちまちなくなり、朝から用意した井一杯の豚汁は二巡半あたりで底をついた。

ホームレスの年齢層は高いかといえばそうでもない。40～50代が多いようだ。その中にかんがりの高齢者や20～30代が混じっている。女性は10人くらい。彼等の中の手慣れた人は、教会から荷を積んだ車が到着するやすぐさま準備を手伝い始めた。

7年前に出会った人たちがまだかなりいたことに驚いたが、私のように久しぶりに炊き出しに参加するボランティアに限らず、信者でもなく話を聞いて初めて夜回りや炊き出しに参加してみたという人たちもいる。今回初の参加の人の話「以前一緒に働いたことのある知り合い二人がホームレスをしているのに遭い、辛かった。飲食関係だが、現実の厳しさを感じた」

5. 四月の献品等のお願い

今回の炊き出しは4月9日になります。献品等ございましたらお預かりしますので、高橋までお願いします。

また、夜回りや炊き出しに参加してみたい方は覚までお知らせください。

～お詫び～

この通信も活動の紹介も純粋に高橋覚の個人的なものです。献品のご協力をお願いする関係から全員の方に配布させていただいておりました。ご自身の主義などからいって快く感じられない方に対しては押し付けに思われることでしょう。どうかご容赦くださり、その際には何気なく破棄下さいますようお願いいたします。

1. 献品 衣類一箱(セーター・ジャケット類10数点) 本校職員

2. 4月6日の夜回り(旧図書館コース)

五橋公園の猫と暮らすおじさんは入院中で不在。福祉プラザは警備員がいる間は戻らない。肴町公園はしばらく4人になる予定らしい。そこの女性が23.5の歩きやすい靴がほしいとのこと。

西公園。橋の下のハウスの一人は支援センターに入るので来月はいない。川に近いハウスの人は健在。自転車置き場の人はまだ出稼ぎ中だった。歩道橋の下の方は工事の関係で来月は公園内で少し移動する予定。先月聴いた「危ない話」はもう心配いらなそうだった。勾当台公園。野外音楽堂に3人。いつもいた内の一人(若い人)は支援センターに入ったとのこと。区役所近くのベンチにいた渡辺さんという人はセンターや生活保護の相談をしたいということだった。早速そのことを相談役のHさんに報告した。141側の広場ベンチにも一人寝ていておむすびとゆで卵に炊き出し案内チラシを置いてきた。

3. 4月9日の炊き出し(五橋公園)

100人以上の人がやって来てふるまいと雑貨品の受け取りをして行った。天気も良くてよかった。

つまずき一つ

炊き出し最中の私の失敗。「以前旧レジャーセンターで寝泊りしてましたよね」と一人に声をかけた。突然話しかけられた本人はビックリとして「おれはあちこちで寝泊りしてるからわかんねえ」と叫んで離れていった。まずいアプローチだった。私は慣れているつもりでいて、自惚れ、傲慢だったと思う。彼はもう炊き出しに現れないかもしれない。悔やまれる。

つまずき二つ

夜回り通信に献品協力者をご了解を得て載せさせていただいた。感謝の報告のつもりでした。ところが、そのようなやり方に負担を感じられるのか、献品下さる方が減ってしまった。また失敗だった。すみません。ご本人には正平協からの受け取り感謝状送付とし、通信では物品及び所属のご紹介だけにいたしますのでどうかまた献品をお願いいたします。

5月の炊き出しは、5月14日です。献品がありましたら、どうかお願いいたします。

夜回り通信

v o l 4 平成17年5月27日

献品の報告

1. 衣類10数点（高校職員）
2. 衣類役10点（高校職員）
3. 海苔類（高校職員）

夜回り（5月11日）・炊き出し（5月14日）の報告

今月は私の仕事のために参加できませんでしたので、報告できません。すみません。献品は炊き出しに間に合うように14日の朝に届け、受取証の発送を頼みましたので、ご了解ください。従って、今回は別の話題の報告をします。

Sさんのこと

もう9年前のことになる。Sさんとは夜回りで出会った。当時62歳ぐらい。ホームレス歴2年ちょっと。パチンコ店に20年以上勤めていたが、宝くじに凝り出してから次々にそれへお金をつぎ込むようになって、ついにはアパートの家賃が何ヶ月も滞ってしまい、路上に出ることとなった。

出会う時彼はいつも緑色の帽子を被って、仙台駅の屋上にいたり、一階のゴミ箱で新聞や雑誌をあさっていることが多かった。彼からの最初の相談は、ちょっと目を離している隙に保健証の入ったバッグを盗まれたとのこと。その次の相談は、年金が出るかもしれないから調べてみたいということだった。

そこで、私が昼間の都合のつく日に日時を待ち合わせて一緒に元寺小路教会そばの年金センターへ同伴した。係員に正直に事情を話して頼み調べてもらった結果に、二人で啞然となった。Sさんは2か月に22万円の年金を2年以上ものホームレスの間に貯蓄していたことになりそれが300数十万円にもなっていた。

そこまでは良かったが、係員に「本人の通帳を用意しないと振り込めません」と言われた。通帳を作るには住所が必要になる。Sさんと私は相談して、いちかばちか2年以上前に住んでいた住所のあった区役所へ足を運んだ。そこで、すでに住所のなくなっているはずの本人の住民票を発行してもらった。お役所仕事にあれほど感謝したことはかつてなかった。

おかげでその後、年金の振り込みを得て、相談の上300万円は定額にして修道院（EPさん）に預け、残りの資金でアパート生活を始めた。その間にEPさんの教え子である卒業生の家族が経営しているケアハウス（吉成）にSさん入居のお願いに上がった。そして、アパート暮らしから2年後に入居した。

（ウラ続く）

そこは身の回りのことができる人が入るアパート形式でプライバシーが守られ、三度の食事と共同風呂と、ナースコールが完備している。不調が続いた時は別棟の24時間態勢の特養施設にしばらく移されたりする。要するに非常に快適な暮らしで、Sさんは年々元気になっている。ケアハウスの生活が落ち着いたところで預かっていた定額通帳も本人に返した。

Sさんは丸森の実家の墓に入りたいと以前から言っている。

次回の炊き出しは6月11日です。衣類や食糧等で献品できる物がありましたらお願いします。

6月から報告ができませんでしたので、8月までまとめて報告します。

6月

1. 献品 ①衣類・紙袋類(高校職員) ②米(高校職員) ③米(高校職員)

これらは6月11日の炊き出しで使ってもらいました。

2夜回り(6月8日) 国際センター裏の橋の下に洞窟があり、そこに二人住んでいたのが調べよとのことだったので、懐中電灯をかざして何度も呼んだが返答がなかった。ベンチには一人。西公園の陸橋の下55歳男性。「センターに入ることを市の職員からしきりに勧められたが、そこにいる3ヶ月の間に仕事を探さないとすぐに出されるそうなのでやめた」とのこと。旧図書館奥のテント小屋に長居している老人。「炊き出しに行ってみたいが、自分は年金をもらっているのをそのことをやっかんて来るのがあるからいけない」といつもの口調で言う。おむすび、ゆで卵、みそスープの他に、煮炊きもしているのでカセットボンベと米なども置いてくる。橋の下のハウスの皆さんは4人入れ替わっていた。前の住人はセンターに入ったとのこと。新顔に20代の若夫婦がいた(20代のホームレスも珍しくない)。煮炊きを盛んにしての食事中だったので米やボンベ、ローソク等を置いてくる。勾当台公園のベンチでMさんは変わらず元気だった。この人を10年前から知っているが、不思議といつも淡々とまた飄々としている。他に、二十歳過ぎの若者が、「支援センターからSホーム(仙台市路上生活者支援ホーム)に移って一ヶ月で追い出された」と訴えた。また、ベンチには市の公園管理者名で『荷物撤去命令』の張り紙がしてあった。後日市役所の支援課というところへ行ってみたら『仙台市ホームレス自立支援等実施計画』(平成16年度-20年度)という冊子を渡された。読んでみると、市が国の施策に則ってホームレスの支援と排除を並行して行っているのがわかる。

炊き出し(6月11日)いつも100人来るのが76~77人だった。市の認知は263人。反省会では元ホームレスでアパート暮らしをしている人や生活保護を受けている人は炊き出しから遠慮願うことと、そのための方法が議論になった。

7月

1 献品 ①衣類(高校職員) ②衣類(小学校保護者)

2夜回り(7月6日) 私はすっかり旧図書館、勾当台コースの専属にさせられた。この日の夜回りから息子も参加した。実は6月の炊き出しから参加したが、夜回り参加は初めてだった。仙台で夜回りを始めた時に「いつか息子を夜回りに連れてきたい」という愚かな父親の夢があった。今回それが実現して、素直に嬉しかった。実は愚息の学校には『ボランティア活動制度』というしっかりした規定があって、年間70時間の活動で2単位取得できるようになっている。一回の夜回り5時間、炊き出し6時間計月11時間をこなしてゆく。※8月までに愚息は34時間稼いだ。大変だ、疲れると言いながらも行けば周囲から褒められたりすることに本人まんざらでもないようである。私は10代のボランティア活動に純・不純は無関係と考えている。単位やポイントほしさで向かった活動の中で、御礼を言われ感謝される内にその活動を楽しみに出かけるようになる。そのことの得るものの方が大きい。また、結果としてのポイントを貯めて大学の進路実現を果たした例も身近で見ている(愚息にその意はないが)。年間のコンスタントな奉仕活動を通して、自己の様々な発見があり、成長のあらゆる可能性の芽が育ってゆばよいのだと思う。

炊き出し(7月9日)100名ほどのホームレス。愚息は2回目の参加で仕事の要領も分かってきたようだ。準備ではおむすび作り、五橋公園では衣類配りをこなしていた。「兄ちゃん、ありがとよ」といわれ、照れくさそうである。本人の感想にも「ありがとう、と言われてうれしかった」とあった。

8月

1. **献品** 衣類(小学校保護者)

2. **夜回り** (8月10日)アルバイトの入った息子とは、後で合流することになった。スポーツセンターの裏手に駐車して歩き出すと、必ずと言っていいほどすぐにセンターの警備員が声をかけてくる。「ごころうさまです。きょうはいませんよ」と。「はい、ありがとうございます」。そして国際センターの裏手に回るとベンチに必ず一人はいた。西公園の橋下は雨で斜面が滑るので、恐る恐る降りた。一番下の小屋の住人は素っ裸でひっくり返って寝ていた。返事がないので炊き出し案内とおむすびだけ置いて帰った。勾当台の音楽堂には20代のホームレスが3人新顔でいた。夏場はホームレスも入れ替わりが多い時期とされる。

炊き出し(8月13日)学校と親側の了解を得て授業で呼びかけて募った本校の生徒(3年)を3人連れて行った。野菜切り・おむすび作り・衣類整理の午前中と、現地では汁物配布と衣類や雑貨配りを手伝っていた。以下に、本人たちの感想を紹介します。(紙面の都合で2名分)

① ボランティアに参加して 3年 S

今回初めて路上生活者の方への炊き出しボランティアに参加してみて、たった半日だけでしたがとても貴重な体験をすることができました。

正直、路上生活者の方と接することに不安を抱いていました。しかしその不安は路上生活者の方々の「ありがとう」の一言で消えました。

ボランティアスタッフの皆とおにぎりを作ったり、炊き出しの準備をしている間もとても楽しかったです。

この日の「ありがとう」がとても嬉しくて、またボランティアに参加したいと思いました。

そして、「ありがとう」が私にとって魔法の言葉になった日でした。

② 炊き出しに参加して 3年 Y

8月13日にボランティアとして炊き出しの手伝いをしてきました。

最初はどんな人がいてどんなことをするのか分からずすごく不安でいっぱいでした。でも教会に行ったら、おばさんの方々が「あれやって」「これやって」と優しく指示してくれたのでとてもよかったです。

ホームレスの人たちの食べ物を作り終わってから五橋の公園に行ってみると、もう既に行列ができていてびっくりしました。公園の中に入ってみると、手や足が汚れていたり服がすり切れていたりとかがあって、とてもかわいそうな気持ちになってきたり、始めてみたこともあって恐怖という気持ちにさえなってしまう思わず顔が引きつってしまいました。

この体験を通して、皆が裕福に生活しているわけではないことを心で感じました。

とてもよい体験ができたと思います。

次回炊き出しは9月10日です。献品がありましたらお願いします。

1. 献品 タオル類 (小学校保護者)**2. 夜回り(9月7日)**

6時半過ぎに息子と元寺に行くと、早いものでおむすびは既に大分できていた。スタッフの常連は正平協会長の W さんをはじめ10数人。実は五〇～六〇代のおばさん方が主力であり、実際のところこの方たちの奉仕で支えられている。高2の愚息などはたいそうかわいがられる。何しろ皆さんテキパキと仕事が手早い。私は邪魔にならないように端っこで洗い物をするか、おむすび作りに徹している。

さて、いつもの旧図書館コースへ。出発8時半。スポーツセンター裏から国際センター裏手を巡り➡旧図書館周辺と橋下ハウス➡勾当台公園一帯➡帰着10時半～11時。途中いつもいる人には変わりはないか困ったことはないかを尋ね、新しい人には土曜日の炊き出しの案内をする。

※後日、といってもあらたまった日でもなく飲んだ日の帰りに勾当台あたりを回って帰る(そういうときは自分が酒気を帯びているので声はかけない)時に気づいたことがあった。彼らは、普段の日は夕方には酒盛りをしていることである。ということは、第2水曜日の晩は夜回りがあるので宴会を自粛しているのではないか?確かにボランティアのおばさん方は、酔っぱらいのホームレスを見たら遠慮などなく説教を始める。この方たちは教会の宝物だと思う。どんなにくだを巻くオヤジたちも、おばさん方のきつい説教の前には小さくなってしまふのだ。酒気帯びは炊き出しにも出入り禁止になっている。それもあってか、第2水曜日の晩は、彼らはいつもおとなしく夜回りの来るのをを待っているのかもしれない。酒盛りしているところには出くわさないからである。それはそれで、ありがたいことだと思う。

3. 炊き出し(9月10日)

仕事が抜けられず、息子だけ参加した。この日は結婚式がある関係で元寺は使えず、急ぎょ北仙台教会を準備のためにお借りしたとのこと。炊き出しにきた人は100人ぐらいとのことだった。息子は「よく声をかけられる。知り合いが多くなった。」と言い、楽しくやってきた様子だった。

4. お便りのこと

ありがたいお便りを2通いただいたので、炊き出し報告に代えてそれを紹介させていただきたい。(ご本人の了解を得ていないことをお許し願いたい)

①毎月献品を下さる小学校保護者の方から D 祭の日に献品と一緒に次のお便りが入っていた。

「(夜回り通信の送付を) ありがとうございます。必ず笑顔でむかえられる奉仕とは違い、地道な活動を広い心で続けられる事は、先生ご自身はもちろんのこと、ご家族の皆様におかれましても大変な努力と存じ上げます。

微力ではございますが、今後もお力の一端になれるよう心がけてまいります。

(今回は、名入りタオルではありますが、すべて新品です。使いやすいよう糊を流すように洗濯してお持ちいたしました。) お役に立てれば幸いに存じます。」

大変ご丁寧なお志が伝わってきて恐縮いたしました。身に染みてありがたく思います。私の『道楽』は家内を始め家族は幸い理解してくれています。(言ったら聞かない私に諦めているのかもしれない?) 出向くときは気重になっていることもありますが、疲れによるものです。でも、自分の中に元気をもらいに行くのだという思いがいつもあります。だから帰りはいろんな思いと一緒に

に、仕事を終えた達成感のようなものがあります。

元々私の活動の出発点は学生時代の東京、南千住の山谷でした。30年前（自分でも信じられない）二十歳の頃になります。洗礼前の私は、そこのミッションナリーズオブチャリティ（『神の愛の宣教教会』マザーテレサの日本支部）に出入りしていました。インド人の若い（ブラザーと呼ばれた）3人の修道士にくっついて毎週夜回りに出ました。そこに泊まって彼らの変な日本語と付き合い、しょっぱい味噌スープとあやしい味のするパンを一緒に食べていました。一口に言えば、夜回りもさることながら、人間の優しさを私はブラザーたちに教わりました。ブラザーたちを通して神様を知りました。また何より私にとって一番だったのは、そこに泊まってみる夢のことでした。それまで見たことなどなかった記憶の夢——まだ小さかった私が母に手を引かれている時に、雲の上の御殿を一緒に目にしたことが夢の中で思い出されたことでした。その時から私はとりつかれているのかもしれない。

- ②「思いがけず夜回り通信を読ませていただきました。…………でもどうぞ無理して燃え尽きてしまわないよう、時には休みながら、いい加減で。」と、コメントくださりながら感想をよこしてくれた方もいました。

「(中略) ……………何と表現してよいかわかりませんが、そういうことをしている時の気持ちってふだんの生活ではあまり経験できない、なにかピュアな豊かなものがあるのでしょうか。……」

『ピュア』と自分で感じたことはないのですが、毎回参加されている主婦の方たちのパワーだけはすごいと思っています。

人の迷惑も顧みずにこの『通信』を高校職員室に配り続けています。幼・小は気が引けるので控えていますが、一番は献品ほしさからです。ポスターの掲示だけでは不十分と考え、献品の使途とホームレスの実態をお伝えするのが一番の宣伝と思ったからです。おかげでこれまで高校職員にもたくさん協力いただきました。生徒への波及はまだです。炊き出しに参加してみたいという生徒がやっと出てくるようになりましたが、これからの展開は自分でも未知数です。7年ほど前にボランティアの生徒と職員で毎月炊き出しをやりました。10ヶ月続けたところで、私のミスからトラブルが起こり挫折しました。二度と同じ失敗をしないことだけを考えています。

皆さんありがとうございます。これからもできる時にできる範囲でご協力いただければ幸いです。私自身も好きなことをできるだけんびり気長にやってゆきます。

**次回炊き出しは10月8日にあります。献品ありましたらお預かりします
のでよろしくお願ひします。**

1. 献品者 学校(高校)、高校職員、修道院から各1件
今回は特に幼稚園と小学校の保護者多数および職員から

2. 献品リスト

献金 2件 1,000円

食品

米～ 30.5kg×2袋、15kg×1袋、10kg×1袋 2kg×1袋
ビニール袋 大3袋、小2袋

梅干し～ 大パック6個、ビニール袋に1, ご自宅の瓶に1

海苔 10枚詰め32袋 ジャガイモ・タマネギ3～4ずつの袋1 砂糖 大袋1

割り箸 90膳 ティッシュ2箱 蕎麦2 箱詰め煎餅1個

衣類・雑貨

靴3 オーバー類11 セーター類31 ポロシャツ類52 スポン36

ブレザー類7 背広上下3 靴下6 トレーナー2 石けん1箱 タオル類20

3. 夜回り報告(10月5日)

- ①国際センター ～ 一人はセンターの裏のベンチで、一人は前の庭園のベンチで、二人とも睡眠中なので、そっと声をかけながらおむすびゆで卵と炊き出し案内を置いてきた。
- ②西公園 ～ 旧図書館わきのテントハウスのおじいさんは変わらない。陸橋の下で暮らすおじさん(55歳)も元気だったが、ぼやきも口にした。(その1)炊き出しに自分も行きたいが顔を見知った手配師が来ていて、様子を窺っている。「仕事をやるから」と彼らに囲まれたことがあった。※話の真偽は未確認だが、あり得る話だった。(その2)市民プールのテントハウスが撤去されることになり、これまでずっと親切だった警察や市の調査員が手のひらを返したように突然態度を変えて、この場所を立ち退かせるつもりらしい、とのこと。橋下のテントハウスはメンバーがすっかり入れ替わり、市民会館の坂下に一人で暮らしていたWさんが移りすんでいて説明してくれた。皆センターやアパートに入り、若い夫婦は駅の方に移ったとのこと。
- ③勾当台公園とその周辺 ～ ベンチのMさんは不動の元気。そのことを言うと、本人はカラカラと笑う。足かけ10年のつき合いになるこの人は、炊き出しには一度も来たことがない。いつものとおりおむすび・ゆで卵・炊き出し案内を渡した。それとタバコ1本。ベンチに他に一人睡眠中。音楽堂ステージに4人。顔ぶれがまた変わっていた。※仙台での新顔ホームレスはこの音楽堂でまず挨拶をするのが掟とのこと。耳にした話だが、未確認。青葉区役所手前のベンチが定位置の(別の)Wさん。話し好きで10分もいることあり。「とにかくこじきで酒飲むやつはだめだ。金ないのに酒飲んで。だからこれ(人差し指を曲げてみせる『盗み』のこと)をやってる。「こじきは楽だ。昼間も暖かい所で寝てるもの。「こじきもこじきでないのも、みんな大変だ。苦労だ。…」だんだん私とかけ合いが始まり最後は漫談になってしまう。ダイエー地下広場に10時半過ぎに集合し、解散した。
- 時々自問自答で出てくるテーゼ『なぜ夜回りか?』が頭にまたふっと出る。個人的には、炊き出し以上に夜回りにこだわり、夜回りでの出会いに重点を置いてきた。苦渋と人のさみしさ、哀しみばかりでなく、人の不思議さと喜び、楽しみにも出会えるのが私の感じる夜回りである。

4. 炊き出し報告(10月8日)

高2の息子と本校の高校生3人(前回とは別の3年生)を連れて行った。炊き出しに参加した路上生活者は84人(うち女性5人)。お預かりした献品類はその日にかなり出た。特に衣類は、季節の変わり目のせい、いつもよりたくさん求める人たちが目立った。

生徒感想文

① はじめて炊き出しに参加して、おばさん達と一緒にたくさんのおにぎりを作りました。後にも先にもきつと、こんなにおにぎりを作ることはないだろうと感じました。

わたしたち3人でホームレスの方たちに靴を渡す係をしていて思ったのですが、本当にホームレスなのかと思う人が何人かいました。身につけているものや靴や携帯等…。

携帯電話を持てるなら、家（アパート）を借りるとかもっと違うことにお金を使った方がよい気がしました。親子でホームレスになっている人もいて少しびっくりしました。とてもひかえめな親子でした。ホームレスはホームレスでも、仕事がしたいのにホームレスになった人または自らホームレスになった人もいるのではないかと思いました。

色々なことが学べたので炊き出しへの参加はいい経験になりました。(N)

② ホームレスの炊き出しに参加して、私は貴重な体験ができたと思います。

ホームレスの人たちは私たちが準備して持って行った豚汁や雑貨類をもらいに公園に集まっていました。最初はその並んでいる列を見て、私はホームレスの人たちとどう接してよいのかわからずにいました。でも炊き出しが始まってホームレスの人たちから話してくれたりして、気がついたら自然に接することができていました。またボランティアに来ている人たちとも話すことができました。私は普段年上の人と話することが少ないので、たくさんの人と話することができたのは楽しかったです。

また機会があったらやってみたいです。(R)

③ 私が炊き出しに参加したのは友達に誘われたからです。

私の家の近所にはホームレスがいないので時々仙台駅で見えるくらいでした。そういう時も昼間なのにお酒を飲んでいたりして、正直ホームレスの方のイメージは「怖い」ということでした。

ボランティアは衣類整理と調理班に分かれてやりました。私は友達と調理班で他のボランティアの方々とおにぎりを作りました。作るのは230個で、ボランティアの方たちは慣れた手つきで次々とおにぎりを握り、たらい5個分のご飯であつというまに266個のおにぎりができました。

それから五橋公園に移動しました。公園には既にたくさんのホームレスの方々が待っていました。私は靴や服のサイズを聞いて渡す手伝いをしました。

炊き出しに参加してボランティアの方やホームレスの方の役に立ててよかったと思います。(S)

5. まとめ

大量の献品とその多くの人々の心に感謝します。たまたま前回の夜回り通信 (vol 6) を持って幼・小に献品のお願いをしに回ったら、「ちょっと相談してみます」との返事。そして今回のこのたくさんの献品が届きました。幼稚園も小学校も保護者の方達が熱心に持参してくれました。預かった袋をただ渡すのは失礼なので、夜回りの日に全部ひもとき、それぞれ種類別に仕分け作業をしました。30kgの重い米袋を日曜日に運んでくれたこと(幼)。炊き出し一週間前から献品期間を決め職員室前にそのコーナーを設けてくれたこと(小)。大量もありがたく、少量にも心動かされながらの作業でした。せつせと汗垂らす思いで米袋や衣類を担いで来て下さった方。小さな容器に梅干しを詰めて差し出して下さった方。そのご自宅の貴重な食材から取り分けて詰めて下さった心。ビニール袋にお茶碗一杯分のお米を詰めてよこして下さった方。献品された衣類の一つ一つも実に丁寧な梱包で、くださった方のお心が伝わってきました。学校からの献品をよこす時もメールはいつも淡々と『これを持ってって下さったらありがたい』と言います。これらの仕分けをしながら、思わず何度も作業の手が止まってしまい、ジーンとなって目の前がかすみました。私のこの贅沢な『趣味』——一つ一つの献品を通して一人ひとりの優しさや暖かさに触れる贅沢な『幸福』を思うと、これは俺は止められないな、無にしたら罰が当たるな、とつくづく思いました。

次回の**炊き出しは11月12日**です。今月の私は仕事のために炊き出しに行けず、夜回りだけの

参加になりますが、**献品は届けますのでお願いします。**

※なお、炊き出しの様子は息子から聞く予定です。

1. 献品

① 提供者 高校職員2件 修道院1件 小学校保護者多数

② 主なリスト

米 10kg×1 2kg×1 1.5kg×1 1kg×2 0.5kg×3

0.2kg×3 0.1kg×2

海苔 一箱(10枚×6パック) 20枚 10枚×2パック いりゴマ1パック

ビーフン1パック 割り箸200膳

タオル2 シャツ3 オーバー7 Tシャツ4 冬用ジャケット4

毛布3 セーター5 掛け布団1 ロングソックス3 ポロシャツ17

ベスト1 靴2 短パン2 冬ズボン6 トレーナー2

今回もまた、こんなにたくさんの献品をお預かりしました。どれも一つ一つを手にとってみると暖かいぬくもりが伝わってきました。ありがたく感じます。献品に込められた気持ちを受け取り背負って、ボランティアは夜回りや炊き出しの活動が元気にできます。さまざまな事情あって人の優しさをもしかして忘れてたり捨てて去ったりした人たちにそれを伝達したいと思います。ありがとうございました。

2. 夜回り報告(11月9日)

スポーツセンター周辺から入る。国際センター裏のベンチに一人。表の庭ベンチにも一人。それぞれ寒そうにして寝ていた。要望を聞き、持って行った毛布と寝袋を渡した。「今月の炊き出し日には仙台市の結核検診が受けられるので、ぜひ10時半には五橋公園へ」と案内のチラシも渡した。旧図書館テントハウスのおじさんも検診のことは知っていて、はじめて「行く」と言った。陸橋下ハウスのおじさんの話。「橋の下のテントハウスへ、この一月で2回も救急車が来た。若夫婦の夫が吐血したらしい。」行ってみると、確かに先月はがら空きだったハウスがまたうまっていた。

先月こちらに越してきたWさんに聞くと、救急車騒ぎはあったけども大丈夫とのこと。声をかけたら当の本人が元気そうに米をもらいに出てきたので、こちらから体について尋ねることはしなかった。西公園が終了すると次へ出発する前に、車の中でボランティアのOさんがいつもの要領で記録簿にまとめている。私はすっかりこの大学生のお嬢さんのボデーガードを兼ねた係のようにさせられているが、最近はずっと息子が一緒なので実はだいぶ楽になった。

勾当台公園7人の人と出会った。Mさんは変わらない。おむすびや卵よりも、一本のタバコに実に嬉しそうに顔がほころぶ、とは見ていた息子の感想だった。いつもかけ合いをするWさんが今日はいなかった。きょうは30秒で切り上げよう等と冗談を言いながら出向いて空振りだと、ポカンと穴が空いたような気分になる。

この活動の苦と嬉と痛の体験は、自分の限界を知ることであった。だいぶ以前に月一回勾当台公園で炊き出しをしていた頃は、毎週一人で昼でも夜でも回っていた。そのころ一度あって何かの約束の糸ができ、その線が太くなっていくと本人の社会復帰へとつながることがあった。以前紹介したSさんの例。しかしつまずくと修復できないことも多い。プツンといなくなれると、(むろん約束したわけではないのだが)とても心に堪えた。

3. 炊き出し(11月12日)

仕事で行けず息子だけ参加しました。前日に献品類は確かに届けておきました。

次回12月10日(土)が炊き出しです。献品できるものがありましたらお願いします。

〈もう一つ今回ご協力のお願い〉

12月10日18時半～駅近くの元寺小路教会で

炊き出し支援(資金作り)のための

クリスマスコンサートがあります。(大人1,000円 中高生500円)

詳細別紙または掲示ビラ

チケット高校の高橋覚まで

1. 献品報告

①ご協力された方 小学校保護者多数・職員、幼稚園職員、高校職員

②内容の紹介 献金3,753円

米	4kg1, 3kg1, 2kg2, 1kg5	オイル1	海苔10枚×11								
オーバーコート類	12	セーター	19	スーツ上下	5	ベスト	1				
ジャケット	2	ベスト	1	ズボン	11	ポロシャツ	2	ベルト	4		
トレーナー	14	靴	23	傘	2	靴下	3	ワイシャツ	1	タオル類	5

2. 夜回り12月8日 旧図書館付近を回った。奥のおじいさんもSKさんも、若いCさん夫婦も、陸橋下のYさんも皆元気だった。それぞれの人の名前がなかなか覚えられないのは、こちらから名乗らないからだ、息子に注意されて気づいた。

勾当台公園にWさんがいた。先月いなくて心配だった人である。音楽堂ステージの売店脇で新聞紙にくるまって寝ていた。「いやあ、俺もよう。もう寒えがら、手配師の話さのって話の種に東京さ土方さ行ったもやあ。ところがひでえのなんのって稼いだ分はピンハネされるわ、1週間で逃げ出した。それから12日かけて仙台さ戻ったじゃ。手配師は一人紹介すつと2万5千円自分さ入ってくるんだ。いやあひでえ目にあつた。」その話を聞いた後、10日の炊き出しに来る約束をした。(……が、来なかった。)

3. 炊き出し12月10日 80名(女性6名)ボランティア33名。Wさんは来なかった。手配師もいなかった。これまで経験した中で一番の悪天候の中での炊き出しになった。雨混じりの雪で、非常に寒い。足が凍った。高校からは今回二人の生徒を連れて行った。AとR。二人とも非常に明るく熱心に働いた。それがすばらしくて、感謝され、二人とも嬉しそうだった。

4. 年越し蕎麦の炊き出し 12月31日 18時～

5. 餅つきの炊き出し 1月3日 12時～ 74名(女性2名)ボランティア32名。3升の餅米を臼で8回ついた。あんこ・きなこ・納豆その他数種類。それとお雑煮。スタッフもお相伴に与ったが、大変おいしかった。反省会の席上での話題。調査によると市内に252人のホームレスがいたのが、150人ぐらいになっている。100人ほどの人が支援センターやアパートに入居している。また、東北の各地からホームレスがこぞって仙台やってくる。片道の交通費を貰ったりなどして。等々。

1月炊き出しは、1月14日です。

献品ありましたらお願いします。

献品報告

提供された方 小学校の保護者多数 幼稚園保護者 幼稚園職員と知り合いの方
高校職員

主な提供品 海苔10枚×4, 米1kg×4, ウーメン4束、リンゴ4個、醤油1,
味噌2、ホカロン40, タオル10枚、靴2, セーター類11,
オーバー類8、ポロシャツ類26、ズボン21, トレーナー上6と上下2、
下着類23、Tシャツ1, 靴下13, ジャケット4,

今月もたくさんのお気持ちをありがとうございました。1月14日の炊き出しに出させて頂きました。

夜回り 1月11日

責任者のW会長（カトリック正平協）は車出しのわたしのコースを旧図書館に固定しているようである。車出しの人数が足りないこともあり、やむを得ないと思っていた。ときどきは駅周辺や榴ヶ岡公園方面へも行きたいと思うが、同じコースを毎月定期に回ることも貴重な意味があった。それは心待ちにしてくれる人たちがいることだった。ましてやわたしは高校生の息子と大学を出たばかりくらいの娘さん（オジョーと呼んでいる）をこのところセットで連れて歩いている。それが最近野宿の人たちにも認知されていて、私が娘と息子を連れて夜回りしていると思われるふしがある。

旧図書館の陸橋下ハウスのOさんが「いつもお世話になっているお礼に、拾ったものでこんなものしかないけど……」と、息子とムスメにそれぞれ時計をくれた。部品はそろっていて時計屋に持って行って電池を入れたら十分動く高級品だった。彼らはその手の見つけ物の名人なところがあり、部品をセットにして二人分を紙箱に入れて大事に差し出した。私は感心してただ見とれていた。（後日せっかくの気持ちだからと、時計屋に持って行かせたら、中の部品がなくて修理不能と言われたが、アクセサリーにすると息子が言った。）

勾当台公園のMさんは無反応が多い人だが、珍しく咳をしていた。「今日はたばこはダメだね」と言ったら、口を開けて笑った。気をつけてねと言って立ち去るときに「どうもありがとね」と振り向いて笑顔で言った。十年来初めて触れた表情だった。息子とムスメを連れ歩いている効果か？

口の盛んなWさんはお変わり無く元気。炊き出しに誘うと「行く」と言うが、来たことはあまりない。「おら食うもんなんかいらねえ。どんなやづいるかだけ見でくよう。」またホームレス談義が始まる。「どこか調子の悪いところがあったら無料でかかれる病院があるからね。」「痛でえどごもかええどごもなくて困ったもんだもやあ」……きりがなし。また10分いた。今夜はこの日十八人の野宿の人たちと出会った。

炊き出し 1月14日

わたしはぎっくり腰になり動けず、息子が参加。

2月の炊き出しは11日（土）になります。

献品がありましたらお預かりしますのでご協力下さい。

1. 献金 13,698円(小学校保護者及び職員多数) 5,000円(平成3年高校卒業生)**献品** 小学校保護者及び職員多数 幼稚園職員 高校職員米 10^{kg}×1, 6^{kg}×1, 5^{kg}×1, 2^{kg}×2, 1^{kg}×1 梅干し1パック

みそ1パック 海苔10枚×10セット、10枚×4 紙袋8、ポシエット1,

バッグ1, 冬物下着4, トレーナー1, ポロシャツ2, 冬物つなぎウエアー1, 腹巻き1, セーター1, どんぶく1

毎回感謝の思いが尽きません。小学校は毎月発刊の予定表に炊き出し予定日を入れてくださり、保護者・教職員全体のご協力をいただいています。

2. 夜回り 2月8日

今回は**出発前の様子**を一部報告します。」

家に帰って30分横になってから出かけた。出かけるときはくたびれているが、車が現場に近づくにつれて覚醒してくる。いつも少し遅れて6時半から7時頃にゆくので、教会の台所や奥の和室は夜回りの準備の喧騒で埋め尽くされている。夜回りは大体いつも10数人のスタッフ。50～60代のご婦人が中心(コレガトツテモツヨイヒトタチ)で、わたしのようなオヤジが2～3人。20代が二人ぐらい。「こんばんは」と声に力なく挨拶すると、「今日はジュニアは？」ご婦人がぎろっと見て言う。「息子はテスト期間中です。いちおう高校生なので」一瞬笑いが起こった。息子はご婦人に人気があった。オヤジも昔おばさんに好かれたから、かわいそうだが遺伝である。夜回りがなんでこうなったのか、なにしろご婦人方のパワーがすごい。準備もテキパキとこなすし、夜回り中には野宿のオヤジたちに遠慮なく説教する。息子がいないので今日は案の定幼稚園でパートをしているOさんと二人の夜回りとなった。ちょっと気が重くなる。まず出発に手間取る。このムスメはボランティア用のカレーがおいしいと言って三杯おかわりし、残りをビニール袋に入れるのにまた時間がかかった。背中にしょったリュックに大事に入れてある。「すみませーん」とニコニコしながらトーンの高い声で言う。夜回りしてるとときどき目が回ることもあり、オヤジたちの方が気遣ってくれることも多い。

出発 一日大雪とみぞれの日だった。車中でムスメのOさんは母親に怒られても自転車で来たこと。途中車にずいぶん注意されたこと。バスの運転手にはマイクで怒鳴られたことなどをとぎれなく話す。わたしは一言「バスや車も大変だったね」。すると「そうなんですよ」とやり返してくる。園児の気持ちもきくと分かるにちがいない。

国際センター裏のベンチに一人、毛布にくるまって動かない。声だけかけておむすびとゆで卵、炊き出しのチラシを置いてゆく。**西公園** Sさんが橋下ハウスに来やすいように雪かきをしてきれいに道を作って待っていてくれた。ありがたいと思う。**陸橋下**のOさんは先月時計をあげた息子がいないのでがっかりした顔をしていた。「部品がなくてもアクセサリーには使えると言って大事にしていますよ」と伝えるとやっとなを直してくれた。**勾当台公園** Mさんの饒舌ぶりには初めて出会った。Wさんは人を見ると饒舌になる。さびしいのだろう。ただ今日は一杯入っていた様子。Oさんと話しているうちにシモネタの話になってゆき、わたしは一喝してそこを離れることとなった。その後のOさんの落ち込みよう。「アァー アタシはセクハラされた。アァー アァーあたしがセクハラ受けないようにちゃんと守ってちょうだい」「この活動を望んでしてるのなら自分でやり返すぐらい強くなりなさい」「アタシできない」わたしはまた、くらくらときた。この晩であった人は17人だった。

3. 炊き出し月 2月11日 わたしは仕事のため不参加。息子が参加してくれた。

次回の炊き出しは3月11日です。献品などありましたらお願いします。車出しも不足しています。

1. 献金 2, 111円 (小学校保護者・職員) 1, 000円 (高校職員)

※小学校は献金箱を作って毎月回収してくださっていた。

2. 献品 小学校保護者・職員多数、高校職員

米10K×1, 6K×1, 1.5K×1, 1K×2 海苔10枚×6 割り箸50膳×6 キッチン
ペーパー1巻 ロールペーパー4 ふきんセット 靴6足 ズボン5本 上着5着

3. 夜回り 3月8日

昼間晴れた空に風の恐ろしく強い日だった。仙台でも瞬間風速30km以上だった。その名残がまだある中、元寺小路教会に7時に息子と到着した。キャンプの渡辺さんから「きょうはムスメ(Oさん)はお休みですから」と言われた。息子が「きょうはスムーズにいくな」とボンリとつぶやき、思わずうんと言ってしまう。「でも、あの人を待っているおじさんたちもいると思うよ」なるほどそうかもしれない。出発19時45分。3カ所追加してくれと言われ、息子と二人で早めに出た。

勝山方面の**外記丁通公園**という小さな公園内にある土管の中で一人暮らしているとのこと。行って見ても人気がないので炊き出し案内とおにぎり、ゆで卵をビニール袋に入れて土管の中に置いてきた。

次は法務局の裏手にある**跡付丁児童公園**という所。仙台市民10年めでいまだに道不案内な私は息子に地図を持ってもらったの運転。小さな公園奥のベンチに、確かに一人寝ていた。「こんばんは。正平協のタカハシといいます。炊き出しの案内に来ました。おむすびとゆで卵をどうぞ。それとこれ炊き出しの案内です。お寒くないですか？お困りのことはないですか？」「はい」「炊き出しにおいでになったことはありますか？」「いや」「五橋公園をご存じですか？」「はい」「今度の土曜日つまりしあさって、そこで12時からあったかい食べ物の配給と衣類の提供をしていますからよかったですらぜひおいでになってください」「はい」「お寒いので気をつけて下さい」「はい」「おやすみなさい」「はい」

次に車は西公園通りに出て仲の瀬橋を渡り、いつものスポーツセンター裏手にある路上のスペースに止める。そこから裏側を歩いて**国際センターの裏**に回り、外のトイレ近くの**橋の下にある洞窟**。そこに一人いるらしいとは以前に聞いていたので、いつも橋の上から大声で「こんばんは。夜回りです。炊き出しの案内に来ました。誰かおいでですか？」と声をかけるだけで、返事の無いのを確認して立ち去っていた場所だった。きょうは確かにいるから行ってほしいとのことだった。その話を聞いた時、すぐに息子が「きょうは探検があるぞ」と告げておいた。橋の脇から急な坂を息子とゆっくり下って行った。最近雨がなかったので斜面が乾いているとはいえ、滑った。大丈夫か？—大丈夫。ゆっくり来い。おとうさん大丈夫？うん。懐中電灯片手にそんなことを言い合いながら川縁まで降りて行った。時刻は8時40分頃。誰かいるならもう戻ってやすんでいるはず。電灯で奥まで照らすと確かに洞窟のようなスペースが川沿いにあり、シートをかけた大きな荷物がはみ出して見えた。あった。あそこだ。行ってみるぞ。息子を促して先に立った。「こんばんは。こんばんは。夜回りです。炊き出しの案内に来ました。おいでですか？—こんばんは。こんばんは。夜回りです。」返事がない。「いないか、お休み中だ。案内を置いてゆこう。」「うん」おむすび類をセットにした袋をシートの上に置いて立ち帰ろうとした時、荷物の一番奥の端がむっくりと動いた。頭を起こしたのだった。私はややびっくりしたが、「起こしてすみません。炊き出しの案内に来ました。」「あつ、は、は、はい……。」「案内とおむすびここに置いておきますね。」「は、は、はい……。」「それともお渡ししますか？」「い、い、いえ」「はい」早々に引き上げることにした。やすんでいた人は予期せぬ来訪者にうろたえた様子だった。(次回もここまで出向いて来るかどうかは本部での相談)斜面を登る帰り脚。「お父さん気をつけて」と後から息子の声。私は愚かな親父の常でこういうときに瞬間妻に息子を産んでもらったことを感謝した。

西公園 ここは煮炊き者が中心なので米とカセットボンベも置いて歩く。「Kさんお元気ですか？」「はい」旧図書館奥のテントハウスに独りで住んでいるおじさんは出入り口の向こうからなかなかしゃれたランプを持ち出してきた。「それいいですね」「100円ショップなんです。中のも100円」ニコニコして説明した。「ここの建物はいつまで大丈夫なんでしょうね」「それが説明しに来る人によって違うんですよ。もうすぐ立ち退かないとだめだと言われたり、まだ大丈夫と言われたり……」「はい。ともかくお大事に。お元気でいてください」「はい、ありがとうございます」陸橋下ハウスのOさんには息子にあらかじめ言葉の用意を考えるように言っておいた。時計をくれたおじさんである。「あの時計ですが、部屋に飾ってますんでありがとうございます」「壊れ物ですみませんでしたね」「いえ、ぜんぜん大丈夫です」Oさんがうれしげに笑った。息子エライと思う。橋下長屋のSkさんは風邪をひいたと言って出てこないで息子に届けさせた。若夫婦の奥さんは不在だったが、どうしたのか聞けなかった。

勾当台公園 Mkさん。「やあお待ちしてました」と言われた。こんなネアカな彼に会ったのは初めて。「きょうは風が強くて大変だったでしょう？」そうそうと言いながら自分の荷物の山の周りにビニール傘を五つも六つも並べていて、まだ片付けの途中だった。10個ほどのライターまでベンチに並べてある。ロン毛に髭のホームレスといったら市内で彼を知らない人はいないにちがいない。ある日雨か何かの強い日にカラオケ店のソファーにひっくり返って寝ていたそうだが、店員が注意できずに困り果てた、というのは息子からきた話。Mkさんはあくまで元気。好物の煙草を一本さしあげた。先月セクハラ言動をしたWbさん。きょうはムスメ(Oさん)がいなくても意に介さない。「おむすびとゆで卵どうですか？」「やめんだ、やめんだ。そったな意味

ねえごど。疲れるだけですよ」「味噌スープ飲みますか?」「はい」やけに返事がいい。それから手配師ではなく今度はこれ(人差し指で頬に線を一本引く)の紹介で仕事に行ってみたら、稼いでも金の払い先送りされて結局また逃げてきた、と言う。きょうは最終16人と出会った。Oさんが先月30人と申告していたのであまる計算だった。そこで今回も途中から煮炊きしていない人におむすび・ゆで卵を一人2個ずつさしあげた。終了22時25分。帰宅22時45分。息子は翌朝新配休み。ついでに親父の朝飯づくりもめでたくお休みでした。

4. 炊き出し 3月11日 9時~16時

天気は良好。最高の炊き出し日よりだった。おいでになった人76人(内女性3人)。ボランティア31人。仕事で息子にばかり頼んでいた私もこの日は生徒を連れて行った。N(3年)・F・A・M(2年)以上4人。本校の生徒を連れて行って感謝されないことがないのだが、この日は絶賛された。私が帰宅して疲れて早々と寝たあとの夜中に正平協会長のWさんから改めてのお礼の電話が来た、と後で家内から聞いた。それはそうなるにちがいないと予想はしていた。運動部系の生徒たちなので元気がいい。返事がハキハキしている。休まずによく働く。明るいから場が華やぐ。ホームレスの親父たちに対しても臆することがない。受けがいい。ようするにとてもよかった。「また機会があったら来たいと思います」と反省会でも感想を述べていた。

4年前にカトリック教会正平協会でWさんが炊き出しを始めて以来、一緒に始めたスタッフで独自にNPO法人『萌友』を立ち上げてホームレスの生活支援活動をしている人がいる。そのキャップHさんが私と一服しながら熱っぽく語った。日本の中老年の自殺者数が世界でもトップであること。年間4~5万といわれるが、不明者はその数に入っていないし、志願者や予備軍は後を絶たない。またこの社会の情勢からホームレスは益々増えてゆく。借金を抱えてどうしようもなくなっても相談するところはあるのだし、ホームレスになることも遁走したり自殺することもないのに、手だてを知らな過ぎる。またホームレスの問題も自殺者の問題も、それへの対策が『お金』で解決できると政府や世間では思われがちだがそうではない。食べるのも・着る物の点だけで言えば、日本のホームレスは恵まれている方だろう。重症なのは本人たちの孤独の問題であり、彼らは心の空白に苦しんでいる。私達はたくさんの支援に感謝しながらそれに取り組んでいかなければならない。……Hさんの話は尽きない。

炊き出しボランティアに参加して

2年 M 私は初めてボランティアに参加しました。内容はホームレスの人に昼ご飯を用意したり、寄付された洋服などを差し上げることでした。私は午前中献品の衣類の仕分けを手伝いましたがその中には汚れた物や壊れた物も混じっているのを見て、「本当に人を助けるために寄付したの?」と思ってしまいました。寄付は要らない物をあげるのではなく人を助けるためにするものだといろんな人に気づいてほしいです。また反省会中に一つ疑問がわきました。この炊き出しはホームレスの人にとって良いことなのか、これに甘えてホームレスをやめないのではないか。ホームレスの人を助けるのならちゃんと就職先を見つける手伝いをした方が、人を救ってあげられるのかもしれない。炊き出しを必要としている人たちが早く自立できればよいと思いました。

2年 A 先日炊き出しボランティアに参加しました。そこでは、初めてする作業ばかりでとても新鮮でした。なかでも私は、同じボランティアをしているおばさんたちの考え方に関心を持ちました。私はホームレスにより印象をもっておらず、日頃こんな人たちに炊き出しする意味はあるのかと思っていたのですが、おばさんたちは、ホームレスの人たちの自立を応援しているのよ。自立してゆく人を見ると私達のやっていることも無駄じゃないし、嬉しくなるの、と話してくれました。その他にも色々な話を聞きました。「ああこれがボランティアなんだ」私はおばさんたちの心の温かさに少しふれ、一つ学ぶことができました。自分のもっていた考えと違う考えを学ぶことは、人として成長するきっかけだと思います。機会があればまた参加したいです。

「自分さえよければそれでいい」社会の隅々にいたるまで、それこそ善意の活動にいたるまでそれが浸透している世の中である。その中に、みずみずしい感受性をもった世代が入り込んで行き、世の中の疑問と向き合う体験をしてくれることに何よりも本当に感謝したい。生徒が参加しそれを後押しして下さる方々にも深くお礼申し上げます。

次回の炊き出しは4月8日です。自立支援活動はすべてボランティアと献品などで成り立っています。よろしくお祈りします。

1. 献金 4,000円(幼稚園保護者)**2. 献品** 高校職員 天使園

女性用オーバー1 スカート2 ジャケット2 エプロン3 毛布4
トレーナー上下2 Tシャツ4 ポロシャツ9 セーター4 長靴2
ベンチコート3 オーバー類3 タオルケット5 米2kg×2

★お願い……お米類など時々私(覚)の椅子の上などに献品者不明のまま置いてあります。私は献品も献金もお預かりした方に炊き出し主催者から受取証をもらって送付等をしています。名前は出したくないというお考えの方ならそれでも結構です。確かにお受け取りしたという報告をこの通信が兼ねているつもりです。でももし差し支えございませんでしたら、個人名報告はせず所属部署等の紹介だけにしておりますのでお知らせください。

3. 夜回り(4月5日)

昼間降っていた小雨があがらずに、寒い晩だった。ホカロンをして息子と出た。「Oさんは、飽きたのかな?」「2〜3ヶ月したらまた来るんじゃない」と息子。なるほど…。教会に7時半過ぎの遅い着。いつも申し訳ない。ご婦人パワーでほとんどできあがった後だった。ボランティア夕食定番のシーフードヘルシーカレーが息子は苦手で、またご飯ばかり食べていた。

跡付丁児童公園は小雨にけぶり、外灯下のベンチには濡れた荷物だけが置いてあった。

スポーツセンターは立ち入り禁止になっており、いよいよ工事に入る様子。車は国際センター向かいの路上に止め、徒歩でセンターの裏手に向かった。いつものベンチに今日も一人寝ている。この人の起きているのに会ったことはだいぶ以前に確か一度きりである。周囲を遮断するようにいつも全身をがっちり衣類で覆っている。トイレ脇の橋の下にある洞窟は足場を照らしただけで降りてゆくのを断念した。「こんな所にいるのは人に来てほしくないからなんじゃない?そうでなきゃもっと勾当台とかにいるはずだよ」と、息子。

旧図書館。Kさんは年金受給ホームレス。訪問する他のボランティアに、顔見知りのいない場所の住みか探しを今頼んでいるところとのこと。Oさんは元気がボヤキが出た。「最近エサが取りにくい。食べられない日が続く。行政の指導で営業ゴミの管理がコンビニに徹底されて、ゴミ箱が施錠されているため、エサにありつけない。冬場マルマルだった人たちも今はガリガリになっている人が多く、しかも人数も減った。……」Oさん55歳。ホームレス歴6年半。支援センターに入るや否や決定がつかない、と言う。「大丈夫ですよ」と、息子が応えた。その息子は帰りの車中では「自分次第じゃない」と言っていた。Sさんの風邪はすっかりよくなっていた。「先月はひどかった。市立病院に行つて薬もらって飲んだらよくなった」と言う。

勾当台公園は新しいコースにはなし。MさんやおしゃべりのWさんにあえないのは寂しい。10時半に帰宅した。

4. 炊き出し(4月8日)

朝からあやしい空模様。準備が出来て運び出す頃にはすっかり雨脚が目についた。それに寒い。五橋公園では木の間にビニールシートで屋根を張る。悪天候の時には皆さんの出も悪いが、それでも50人(女性0)の参加。小雨振りしきる中、スタッフもその場で昼食をとった。おむすびも思いっきり雨水の入った豚汁もおいしくて、体が温まった。衣類は一人3点の手渡しにしてぐるぐる回る形式をとった。心強いのは炊き出しになると必ず手伝いに来る元ホームレスの人たちだった。

5月の炊き出しは13日です。献品ありましたらお願いします。

1. 献品 小学校保護者 高校教員

海苔10枚×5 米5kg×1, 1kg×3, ポリ袋1箱、ホイル1, バスタオル1, シャツ1 衣類ケース1

2. 献金 高校職員 2,000円 小学校保護者及び教員 3,349円+1ドル

小学校教員知り合いの一般の方から 10,000円

3. 夜回り (5月10日)

「いい晩だね」と息子が気持ちよさそうに言った。予報の雨も落ちず、寒からず暑からず、夏が歩んで来そうな予感のする新緑の夜だった。外記丁通公園はやっぱり不在で夜といえども人が暮らしている気配は土管にもない。今日はおむすびや炊き出し案内を置くのも止めにした。野良猫のえさをつくるのも近所の住人に対してよくない。法務局裏の跡付丁児童公園には、ベンチにいつものおじさんがいた。「Uです」と初めて名のつてくれた。出会って3ヶ月目である。しきりに『石』の話をした。聞いているとどうも腎臓に結石をお持ちのようでそれが降りてきては入院を繰り返して、けっこう大騒ぎしてきた様子だった。「私も同じ石持ちで救急車で運ばれたこともあるんですよ」と言うと、ひとしきり『石』談義にはながさいた。病院を転院した話。カテーテルの話。消えてもまた出る話。……息子が退屈がった。「どうぞ一度炊き出しに来てください。今度の土曜は午前中五橋公園で健康診断もしていますから」といって別れた。国際センターの裏。こうやって息子と歩くのも8月まであと3回。その後彼は異国へ行くことになっている。そう思いながら父親は回数を数えている。ベンチの人はめずらしく起きていて食事をとっていた。会話を交わしたがない気配がしたので用件だけ言って離れた。橋の下にある洞窟。Hさんのお達しで今日はぜひとも行くことになった。斜面は湿気があり滑る。雑草が伸びて地肌の感触がつかめない。「お父さん、腰気をつけて」息子の気遣いがありがたい。白杖すると普段は忘れていてめったに出ない、息子の母親つまり家内への感謝の思いがふっとわいた。洞窟を電灯で照らしたがよく分からない。「いるのかなあ？せっかく来たから案内だけ置いてゆこうか」その時「はい」と言って人が首を持ち上げた。今日は身近で話をする事ができた。

西公園。Kさん不在。念願がなかってアパートに移ったと聞いた。そうなるまで長い時間がかかったので、よかったと思う。緊張した日々をほぐしてゆったりと過ごしてくださいと願う。Kさんの後に、さっそくダイエー地下から追い出されたNさんが荷物をごっそり持って越してきたと聞いたが、外から鍵がかかって不在だった。陸橋下のOさんは「毎日(市の)公園課がやって来て(榴ヶ岡の)支援センターに移れと言う」とぼやいた。橋下ハウスのSさんは若い女性を含む4人で暮らしていた。

4. 炊き出し (5月13日)

午前中から小雨がぱらつき、寒い。公園に今月もテントを張る。しかし、今回の炊き出し最中は、雨はがまんしてくれてよかった。今月はおむすびではなく、タケノコを提供して下さった方により、タケノコご飯にお新香と酢の物、それにほうれん草のおひたし付きの豪華なお弁当が用意された。おまけにけんちん汁まで付いている。準備中に、山椒の葉っぱをご飯の真ん中にのせるべきか端にすべきかについて、ご婦人方の間に議論が持ち上がったので、自分は席を外してオヤジたちがお茶を飲んでいる部屋へ避難した。息子を置き去りにしてきたことに気づいたが、彼は大丈夫だろう。公園では市の健康診断が午前中から行われており、レントゲン車と立派なテントそして職員が5~6人既に来ていた。われわれボランティアとも友好的で、タケノコご飯とけんちん汁のおすそ分けにもおいしそうにあずかっていた。約80人の来訪者。女性2人。炊き出しに行くといつも待っている手伝い部隊が何人かいる。元ホームレスで、今はアパート暮らしなどをしている人たち。非常に精力的に働いてくれる。今日Kが来ていないか、顔を知っている息子に

聞いてみたが、いないと言った。Kは公的機関に勤める父をもち、酒に酔っては段ボールに火をつけたりしてホームレスいじめをしているという。炊き出しに混じってホームレスの様子を伺いに現れていると聞いたが、今日は来なかった。先月一番丁で酔っぱらって暴れ、5～6人のホストたちに囲まれて血を出していたと、ちょうど通りがかった息子がそれを目にしておしえてくれたのだったが……。

次回の炊き出しは**6月10日**です。献品等ありましたらお願いします。また、夜回りや炊き出しに興味を持って一度だけでもやってみたいという方がいましたら、ボランティア人員や車出しの不足に困っていますので、ぜひお声掛け下さい。

1. 献品提供者 高校教員 小学校保護者及び教員 幼稚園保護者

2. 献品 米10kg×1, 5kg×1, 1kg×2 福神漬け10パック カレールー1 ブレザー1
トレーナー上1 上下1 ポロシャツ6 ワイシャツ5 スポン2 セーター3 下着3

3. 夜回り 6月7日(水) 18時~22時

この日は前夜からの雨が降り止まずにいたが、夕方によく小雨から雨上がりの空に変わった。季節は梅雨入りの気配だが、夜回り中は空気が澄んでいて、やや肌寒いけれども心地よい感じだった。息子と私は例によって遅れて6時半過ぎに教会に着いた。ご婦人方の早い人は5時頃から来て飯炊きに入っている。台所のドアを開けると洗い物をしている H さんがすぐに目に入った。「この間は、どうもでした」「生徒の皆さんはどんな感想を持ったべが?」(失礼ながら)めずらしく弱気な返事が返ってきた。「あの後すぐに炊き出しボランティアを募ったら何人もの生徒から申し込みがあっただよ」「ああ、そうかね…」NPO法人『萌友』理事長の H さんを、何をしゃべってもいいからと、強引に勤務先の高校の5月のマリア祭での講演講師に仕立て上げたのは私だった。『お元気ですか、ホームレスさん』という演題のお話は生徒にとってもわかりやすく優しい語りだった。ありがたかった。

息子の苦手な薬膳カレーをいただいた後、出発した。法務局裏は不在。雨のせいだろう。荷物はあるのでチラシとおむすび、ゆで卵は置いてきた。国際センター裏の木立の間を息子と歩く。気持ちよい木の匂いのする空気を感じて、思わずマスクをはずした。時計を見たら8時20分。不養生で風邪が治らず、もう2週間顔からマスクをはずしていない。ベンチに一人、休眠中の人。足場をのぞいて、川沿いの洞窟へは諦めた。センターの前庭のベンチに一人。

旧図書館へ回って、Hi さんはやはり留守だった。陸橋下の O さんに声をかけると「はい」と、テントハウスの中からすぐに返事が返ってきた。本人が出てくる前にビニールの入り口がわずかに開いて、中から「ちょっと太ったね」と息子に向かって何度か言った。「えっ、そうかなあ」息子が笑って答える。H さんの話だと O さんは以前誰とも口をきかなかったそうだ。私たち親子は O さんに気に入られたのかもしれない。きょうは息子にあげようと鎖のベルトを用意して大事そうに手渡した。以前あげた時計が組み立て不能だったのを気にしていたのかもしれない。「いいなあ」と私が言った。「ありがとうございます」と息子。その後ともかく話が止まらない。毎日市の公園課の係と支援課の T さんがやって来る話から始め、支援センターに入ってもうまく社会復帰できた話はめったに聞かないことやら……。話を切り上げるタイミング取りが難しいことが多々あった。申し訳ないですがと言って、橋の下ハウスの方へ移動した。そこでは4人が共同生活をしている。

きょうはもう一カ所新たな巡回場所の指示を受けてきた。道路を挟んだ桜ヶ丘神社の裏に夫婦が住んでいるという。息子と二人でやや不気味な夜の神社の裏手に回ってみた。外灯が一本煌々と照っている下に大量のゴミの山のようなものがビニールシートで覆われていた。昼間雨の日だったので、移動して不在のようだった。私たちは引き上げた。

4. 炊き出し 6月10日(土) 9時~15時 路上生活者70人(女性2人)

今月の炊き出しも雨模様だろうと覚悟していたら、この日は炊き出し日よりの天気になった。誰も皆うれしげな雰囲気だった。元寺は結婚式のため、きょうは準備に北仙台教会をお借りすることになった。人手が足りないと言っていた H さんへの予告どおり、本校から8人(私を入れると9人)参加して皆さんから大変喜ばれた。教え子の卒業生3人と、H さんの講演を聴いた後ボランティアを申し出た3年生3人、それに学校のメールが秘蔵っ子の生徒を連れて参加してくれた。元寺から荷物を運んでからの準備なので、遅いペースのはずなのだが、11時前に準備が完了してしまった。こんなことは知っている限りかつてなかった。若い人たちが休まずよく働いたのが大きかったと思う。それはありがたいと思う。

炊き出しの流れはおおむね順調だった。元ホームレスでスタッフに加わってくれる人たちがいつも何人か既に待機してくれており、総勢二十数人のスタッフでの対応となった。たまに何かハプニングがあったりするが、この日は酔っぱらいのオヤジが一人からんできた。どうも家族で来たものらしく、ホームレスではなさそうだった。炊き出しには飲酒禁止と言っている。野宿の人たちは、夜回りの時にも、酒を飲まずに皆待っていてくれる。我が身を振り返ってもすごいことだと思う。

学校から連れて行った人たちには、見聞や体験で感じ取ったことを自分の糧にしてもらえたら幸いなことだと思う。

炊き出しボランティアに参加して

A(3年)

先日(5月29日)の学校行事『マリア祭』でホームレスについての講話を聴いて、自分の知らない世界を始めて知ることができました。それがきっかけとなって今回の炊き出しボランティアに参加することを決めました。朝早くからたくさんボランティアの人達と古着の仕分けをし、約80個の大きなおにぎりを作りました。それらを持って公園に行くホーム

レスの方たちが大勢待っていました。一人一人におにぎりや豚汁を手渡しするとありがとうと言って受け取ってくれました。途中で酔っぱらいのおじさんが来て怒鳴られた時にはビックリしたけれども、今回のボランティアを通して、貴重な体験と経験をさせてもらいました。すごく楽しかったのでまた参加したいと思いました。

Y (3年)

昨年もいろいろなボランティアをしました。ホームレスの方々と触れ合うことをしたのは初めてでした。今まで私が持っていたホームレスのイメージは、「汚い」でした。しかし炊き出しボランティアに参加して、今まで持っていたイメージはなくなりました。ホームレスの方と話していると、近所のおじさんのノリで話し初めて会った気がしませんでした。笑顔がとっても素敵で、皆いい人達ばかりでした。少々問題はあったようですが、とても楽しく、いい経験になりました。ホームレスの方に来月も来てよと言われたので、できたら来月も参加したいと思いました。

M (3年)

炊き出しボランティアに参加させていただいて、ホームレスの方への偏見が無くなりました。駅によくいるホームレスの方を見て汚いと思ったり、自然に近づかないようにしていました。今回のボランティアでは多くのことを体験することができました。衣類分別の作業やおにぎりを握る作業をさせていただいて、ボランティアの大変さと楽しさが分かりました。ホームレスの方と直接向き合って話すことも初めてだったので、貴重な体験をさせていただくことができました。この体験を生かして、人と人との関わりの深さをこれからも多く学べたらよいと思います。また機会があれば参加したいと思います。

Ay (3年)

今回、先生に誘われて初めて炊き出しボランティアに行きました。始めは行きたくないと思っていたのですが、行ってみると楽しいと感じました。行くとき、今日は絶対に怒らないようにしよう、笑顔で接しようと思っていました。しかし、その公園に行ったらしばらくしたとき、一人の老人が突然こちらに怒ってきました。理由が分からなかった私は、なんだよあのお爺さん、こっちは善意でやっているのに何で怒って突っかかって来るの、と無性に腹が立ちました。だけど後から先生に、ボランティアの人がその人に「少し待っていて」と言ったまま放っておいたので怒ったのだと理由を聞き、怒ったことだけに腹を立てた自分が恥ずかしくなりました。そんなこともありましたが後は順調に進み、私も楽しく過ごしました。初めて炊き出しボランティアに行ってみて、楽しかったです。今回少し怒ってしまい皆さんに迷惑をかけたので、もう一度参加して今回できなかったことをやりたいと思います。

S (新卒業生)

炊き出しボランティアで、私は初めてホームレスの人たちと関わりを持ちました。今まで、ホームレスの人たちについてあまり深く考えることもなかったし、見かけることもほとんどありませんでした。もしかしたら、あまり関わりたくないなと思っていたかもしれません。だけど、ボランティアに参加してみたら仙台にもホームレスの人がたくさんいることに自分の目で見て気づきました。自分の収穫としては、初めて会う人と協力して作業することは意外と良いものだということが分かりました。

As (新卒業生)

ホームレスの人たちへの炊き出しボランティアについては、去年から知っていましたが、受験のために参加できずにいましたので、今回の炊き出しに参加できて本当に良かったです。私のホームレスの人たちへのイメージというのは怖い人たちで話しかけにくい人たちというものでしたが、実際にお話ししてみると優しい人たちばかりでした。今回の炊き出しに参加して、人と人との助け合いの大切さを改めて感じました。豚汁を配っていたときに言われた「ありがとう」の一言が、こんなにうれしいものだとは思いませんでした。またやれるときはぜひ参加したいです。

E (新卒業生)

今回初めて炊き出しボランティアに参加してみたら、いろんな経験をすることができました。まず衣類等の整理におにぎりづくりなど、最初はとまどいながらも一生懸命することができました。その後現場に行きホームレスの方たちと接してみたら、今まであった偏見などがなくなり、いろんな話を聞くことができるともたまたまになりました。できればまた参加して、ホームレスの方たちと交流を深めて社会に対する自分の考えを深めてゆきたいです。

次回の炊き出しは7月8日の予定です。ボランティアに参加できる方はお知らせください。また、献品等が

ありましたらお願いします。

1. 献品 小学校保護者から

Tシャツ2 ポロシャツ1 海苔10枚×20 干しうどん1,600g^{グラム} しそ梅干し1,000g^{グラム}
米10kg、5kg×各1 1kg×1

献金 高校職員から 1,000円

2. 夜回り 7月5日(水)

雨。それに肌寒い。かといって何か上にはおるとすぐ汗をかくような夜だった。職場から帰宅して一休みのつもりが寝過ぎてあわてて連絡を入れた。渡辺氏から「お待ちしてます」と即答された。7時20分に出る。気持ちを押しして今月限りかもしれない息子を連れて出た。留学の途に就いたら来年6月までは帰ってこない。集会所の中は私を含めた親父が4人、ご婦人が7人と少ない。いつもの薬膳カレーを一つ皿で息子と食べた。8時20分出発。8日の炊き出し案内とおむすび、ゆで卵にこの季節の蚊取り線香、それに自炊者には一人一本のカセットボンベと米一合が付く。

法務局裏の公園は荷物だけで人はいない。案内とおむすび類だけ置いた。雨を避けて快適に過ごしていることを祈る。国際センターの裏のベンチ。声掛けするが眠ったまま。用意したものを置き「お気をつけて」と言って過ぎた。いつか何かを相談してくれることがあるかもしれない。雨の中を一本の傘で歩きながら、「お父さん、一人になる」と口にした。30年前の若い頃からずっと野宿者の夜回りにこだわり続け活動し、一人でも歩いていたのに、息子がいると何か気が弱くなったのかな。「アメリカから帰ったら俺またやるよ」その言葉にすぐ元気になるオヤジであった。橋の下の洞窟には今日は行けない。水かさの増している川の脇で一人寝起きを続ける人がいる。

西公園の旧図書館。Hさん不在。陸橋下ハウスのOさんは息子の黄色い雨合羽を見るなり「これいいねえ」と言った。「最近はどうですか？」と聞くとすぐ近くで中高生が夜中に花火をして騒いでいたり専門学校生がトイレにスプレーでいたずら書きをしているとのこと。息子に旅立ちの挨拶をさせた。「来月アメリカへ行きますので来れないかもしれません」「アメリカ？留学？」「はい」「そうかあ、アメリカはいいよ、おれは若い頃中国へ行ったことがあるけど、とにかく海外は日本とスケールが違う。でかい。何しろ……」それから話が続く。この55歳のおじさんに息子は愛されていた。ありがたいと思う。

橋下ハウスへ降りて行こうとすると、ハウスの外が明るくなった。何と雨があたらないように小さなビニールテントを張りその中に椅子とテーブルまで用意してロウソクを灯し、SgさんやSnさん、それにまだ若い女性のSkさんが私たちの来るのを待っていたのだった。「お待ちしてました」声をそろえて言われた。「へええー、ここはなかなかいいですねえ。今から宴会でも始まりそうですねえ」「ええ、泊まっていてもいいですよ」「いえいえそれはけっこうです…」笑いがおこった。今日はここがコースの最後になるので、みそ汁の具やスープも用意された鍋にすっきり移してきた。神社の裏は不在にちがいないので、今夜は省略した。

今日はこの雨。親子ははぐちよぐちよになって「この服お母さんたいへんだ」などと言い合いながら帰った。

3. 炊き出し 7月8日(土)

雨の日でなくて、それだけでもよかった。ボランティアの生徒6人とM。今日は普段学校の事務室にいるMも、親しい若い女性を連れて参加していた。さらにSK学院からもボランティアが4人参加した。ほとんどの人(私も)が彼女らは高校生だと思っていたら、反省会の席上で大学生だということが分かって皆顔から火が出たようだった。いずれにせよ今日は若いお嬢さんたちのボランティアが10人以上もいたわけで、準備の場も炊き出しの現場も、明るく華やでな弾んだ雰囲気だったという、反省会での古参のご婦人の感想が相次いだ。本校からは生徒の母親で最後まで一緒に参加してくれた方もいた。炊き出しの帰り道はいつも「ああ疲れた」と大あくびをする息子も、「ああきょうは楽しかった」などとのたまわっていた。生徒の一人にツーショットを求められて気分がよかったのだろう。若者は元気なのがいい。ところで私はというと、実は午前中は仕事で行けず、昼に家へ戻ってから出かけた。車を乗り付けると「先生、今来たんですか？もう終わったんですけど」笑い顔に目が三角、口がとがっている。ちえっやっぱりきたな。「言うと思った。おまえたちの事が心配で無理に来たんだ」全然説得力のない言い訳だった。今回のこのボランティアの子たちも実によく働いてくれたとHさんなどからお褒めの言葉をいただいた。この子たちを動かしてくれたチカラに感謝したい。またMの連れてきた娘さんも絶賛されていた。

高校生たちはこの日一日で100人の人と出会い、交流体験をする。準備に追われる2時間半。初めて出会う30人のボランティア仲間たちと意思疎通を図りながら共同作業をする。声がかかり指示を受けるまでじっと立っているわけにはいかない。炊き出し現場で70人のホームレスの人たちと挨拶を交わす。声をかけられ、それに返す。優しい心根の彼女たちの感受性にとって、この体験がよい糧となりますように。

8月

1. 夜回り（8月8日）

前日まで真夏日できょうの昼までは晴れ模様が続いていたが、台風の接近で夕方から雨に変わり、空気もムンムンする。（まったく日頃の行いまで考えたくなる）1人で出かけた。アメリカ行き日程がなかなか決まらない息子は、それでも家で準備に追われている。私の夜回りの相棒に、Wさんは北仙台教会のSさんという建築士の方を付けてくれた。私より少し年上の方のようだが、互いの息子のごことに話がはずんだ。

旧図書館のHさんは私たちの行くのを待っていてくれた。「いつもいなくて迷惑かけてたからね」と言って雨の中でニコニコしていた。Oさん「七夕祭りの間ここを出されてねえ。あちこち泊まり歩いて大変だったよ。それこそホームレスしてた」ブラックユーモアとも何とも言いようなく、顔を見合って思わず大笑いした。30数年ぶりというぎっくり腰にも悩まされていた。「だから寝てばっかりいます」と。

道路を挟んでOさんとは反対側の陸橋下に1人いると聞いて出向いた。Smさんといい、まだ若く丁寧な方だった。炊き出しに来たことがないというのでお誘いした。橋下ハウスにはきょうは4人いて、キャンドルを灯したテーブルで迎えられた。「歓迎会のようなですね」と言うと、皆さんがニコニコした。

2. 炊き出し（8月12日）部活の試合のため私は不参加。Mが教え子と一緒に出てくれた。

献品 割り箸140膳 海苔40枚 ズボン5 ポロシャツ9 靴1 ポシェット1 マフラー2 手袋1
提供 高校職員 幼稚園保護者

9月

1. 夜回り（9月6日）

この日も昼まで晴天で、夕方から雨。夜回りの歩を進めるほどに雨脚が強まった。きょうの相棒のIさん（西仙台教会のご婦人）が気の毒だった。出発前のカレーは、薬膳作りがお休みなことから普通味だった。そこでの会話。息子は行ったのか？はい。いつ？30日に11時半の新幹線でお出ました。予定ではこちらの31日のお昼頃には着いたという連絡があるはずがない。乗り換えのシカゴ空港は世界一でかいそうで、もしややっぱり別の所へ行ったかなと、親は真剣に悩みました。一人なの？はい、皆そうさせられるそうです。へええ。で？22時間の予定だったが28時間後にやっと現地のホストファミリー宅から「お母さん着いたよ」と死んだような声で連絡が入ったそうです。なんていう所？ミネソタ州といってアメリカ最北部。近くに湖がたくさんあって、冬はマイナス20度になって氷が50cm張るそうです。それはそれは等々……。

国際センターの裏のベンチの方にまず案内を置いた。この雨なので表の公園は不在だろうとは思いつつ一応回ってみることにしたら、ベンチに近づくより前に向こうから誰かが手を振ってきた。「待ってました。Hさんに相談したいことがあって。上手く連絡がつかんです」そこでケータイを入れ、かした。Stさんというまだ若いこの方は支援センター、その後のアパートから家賃が払えずに出ている。金曜日（8日）に失業手当11万が出ることになっているが住居がないとその後もらえない。そんな悩みだった。次にまた相談する打合せになってStさんは落ち着いたようだった。旧図書館でHさんと会う。Oさんは、息子が寒い所へ行った、と話したらカッカッカと笑った。Smさんは、すみませんすみませんと繰り返した。「今度金ある時カンパしますから。これ（夜回り）たいへんだもの…」こんなこと言われたのはこちらも初めてだった。「そんなこといいから元気になってください」きょうは、橋下ハウスの皆さんはキャンドルの明かりもなく静かだった。雨の中Iさんがいていねいに5人分の味噌スープをカップにつくって差し上げるので、口出しできずに皆でじっと見ていた。しかしここは最終の場所なので残りの具もポットのスープも結局全部鍋に移してしまう。申し訳ない手間を掛けさせたのだった。

2. 炊き出し（9月9日）私は練習試合で不参加。Mが教え子と一緒に出てくれた。

献品 米 20kg×1, 10kg×1, 3kg×1, 2kg×3, 1kg×2
ジャガイモ3kg 味噌パック1 梅干し3瓶 のり10枚×3
割り箸50膳 洗面用品5種×50 ハンドタオル8
ズボン5 トレーナー5 ポロシャツ9 セーター類5
提供 小学校保護者多数・職員、幼稚園保護者一件、高校職員一件
献金 3,861円 小学校の募金

次の炊き出しは10月14日です。よろしくお願ひします。

1. 夜回り10月11日

ひさしぶりにさわやかな天候の夜回りになった。これまで自分はずっと春が季節の中で一番好きだと思っていた。しかし、花粉症に苦しめられる春よりも秋のこの季節が一番よいことを実感した。8時ちょっと前に到着。皆さんが次々に出発してゆく。一人分取り分けてあったカレーをかき込んでIさんと出発した。車中の話題はやはり息子のことに。この間母親へ電話してきた声は疲れ切っていたとのこと。こちらの午後2時はあちらの前日の真夜中12時。毎日タイヘンダ。もう寒いからもっと冬物衣類を送ってクレロ。トンカツをつくると好評だけど、アメリカはパン粉がないから送ってクレロ。ひさしぶりに日本語を話すとなんだか変な気分だなどと……生意気なことを云々。

風が気持ちよい。国際センターの裏ベンチ。いつもの通り睡眠中。顔も忘れてしまった。表のベンチでは、近づくると誰かが待っているのがわかる。Stさんだった。仕事が入って明日小山へ行くのだという。靴下とシャツの新しいのがないか、と言う。持ってないと言うと、がっかりした様子だった。どれくらい行くのですか？前は2年だったが、今度は3年はいたいな、と自信顔で話した。元気で無事であることを祈った。

西公園の旧図書館。Hnさんはお元気だった。Hさんからそのそばの鉄塔の裏に新しく一人いると聞いた。まわってみると、確かに一人仰向けになって被ったものから顔だけ出して寝ていた。雨でもないのに、寝ている周囲を囲むように開いた傘が7~8本置いてあった。この人の癖なのだろう。声をかけたが起きない。炊き出し案内とおむすび・ゆで卵だけ置いて離れた。ホームレスには人間関係のわずらわしさと縁を切って一人で生活している人も多い。次の陸橋下のOさんもそうである。炊き出しにも一度も来ない。コンバンハ、と声をかけると、中からハイと返事がした後、ビニールの入り口を開けながら、ここの電灯が明るくなってねと言った。市の係員がやって来てそばの電柱に点けていったのだそうである。話題は息子の話からたった今ラジオで聞いた話まで。日本人の15%が貧困にあえいでいる。10%が裕福なだけ。チョット見せたいものがあると中に入り紙袋に入った冷凍食品をごっそり持ってきた。これはゴミ箱から拾ったものだとか…。こういう話のときいつもOさんは自分の状況はカヤの外に置いていた。この人と話していると不思議な気分になることに、今回気づいた。会って話すのは月に一回のそれもわずか5分か10分なのに、昨日会ったばかりのような会話の気分が自然と流れていた。貴重な時間の経験だった。

もう一方の陸橋したハウスの住人Smさんは目を患っていた。症状を聞くと結膜炎の疑いがあった。市立病院で診てもらうことを勧めた。入れ替わりの激しい橋下ハウスからは新しい住人が一人だけ出て来て4人分受け取った。先月勘違いして小分けした分きょうは残りの味噌スープを鍋に勢いよく入れるぞ、と考えていたIさんは、スープは要りませんの一言に拍子ぬけした様子だった。思わず声を上げて笑ってしまった。

過去に約一年間続けた学校の炊き出しに失敗して苦しい思いをした事から、一人歩きや独自の炊き出しを家内からも禁じられているので、月に一度の正平協の活動への参加に頼っている。今後も小学校あげでの支援をはじめ、活動に心をかけてくださっている方たちに甘えながらも、継続させながら何ができるか見極めてゆきたい。

2. 炊き出し10月14日

Mと教え子が参加。

献品の記録 米10kg×1, 5kg×1, 1kg×1 海苔10枚×12 割り箸15 紙コップ・紙皿10 海苔の佃煮瓶 乾パン1 石鰯20 歯ブラシセット15 クシ5 ワイシャツ19 ポロシャツ3 セーター7 パスタオル6 タオル13 下着シャツ2 オーバー2 靴下5 女性用部屋着1 ジャージのズボン1

提供者 小学校保護者多数、高校職員3件

わざわざクリーニングに出したワイシャツなど、いつもながらたくさんのご奉仕をありがとうございます。

11月は11日が炊き出しになります。ホームレスは持ち歩きができずたいがい着捨てをしているので、これからの寒い時期はセーターやオーバー類が特にありがたいです。よろしくお願ひします。

献金 3,871円 (高校職員多数)

献品 高校職員一件 小学校保護者多数

ホカロン60個×3箱 米 10kg×1 4kg×1 3kg×2 2kg×2 500g×1 200g×1
醤油1本 コーヒー1ビン 味噌1パック 乾椎茸1箱80g 割り箸22膳 白子海苔3缶詰
め合わせセット1箱 海苔10枚×4 梅干し1袋 梅ちりめん1パック スティックシュガー
詰合せ2箱 セーター7 オーバー1 ウインドブレーカー1 Yシャツ1 ズボン1 ジャンパー1

今月は新人戦の日程と重なったため、正平協の夜回り(11月8日)にも炊き出し(11日)にも出られませんでした。炊き出しにはMが生徒を一人連れて行きました。預かった献品は、炊き出しに合わせて届けました。それで、同じ中心メンバーのHさんやWさんが主催しているNPO法人『萌友』の夜の炊き出し(食事会)に、11月17日(毎月第3金曜日)希望してくれた生徒を連れて参加してきました。以下はその報告で、『萌友』の原稿依頼に対して出したものです。

『萌友』の食事会に参加して

11月17日(金)に『萌友』の食事会(炊き出しボランティア)に参加してきました。『萌友』へは初めての参加となりました。教員の高橋が希望生徒2名を連れて行きました。夕方5時に福祉プラザ9階調理室集合に合わせて行きましたが、6時からということで、実際の準備はほとんどすんでいました。食事会と衣類配布は10階で。二人の生徒はそれぞれご飯と豚汁を入れて渡す係をさせてもらっていました。きょうのメニューは納豆ご飯と豚汁、お新香付き。どんぶりご飯と豚汁はお代わり何回でもOKでした。約50人のホームレスの方たちは黙々と食事を堪能していました。他に、全員に歯ブラシとタオル・下着・石けん・クラッカーなどのセットが配られました。

前週土曜日(11日)に五橋公園で行われた正平協の炊き出しが、急に落ちてきた雨のために、衣類配布をきょうに延期したとのこと。そこで食事がすむとすぐに片付けて、大忙しでその場に衣類や雑貨の配布コーナーを作り、いざスタンバイです。ふと生徒たちが見あたらないと思ったら、下の調理室で大ベテランのボランティアの方たちに(きつとかわいがられながら)ちょうど納豆ご飯に「いただきます」をし始めていましたが、夜の8時までの限定参加なので、ご飯をおあずけにさせて2階に連れて行きました。靴と毛布類の担当につけました。靴は26.5が一番よく出ます。

私たちは初めてのことばかりで戸惑いもありましたが、学ぶこともたくさんあったと思います。

(高橋 記)

次に生徒感想を報告します。

N(2年)

人は助け合いながら生きるもの。それをこのボランティアで改めて実感しました。

私が今までやってきたボランティアは、対象と接することなく終わって来ました。でも今回は、積極的にホームレスの人たちと接することで始まりました。最初は、どうしていいか戸惑っていましたが、萌友の方々が優しく教えてくれたので、何とか無事に終わることができました。

ホームレスの方たちには、自立しようと頑張っている人たちがたくさんいるそうです。私はそんな人たちの手助けを少しでもできたことを嬉しく思いました。これからもこのような機会があったら、積極的にやりたいと思います。

K(2年)

私は今回ボランティアに初めて参加しました。始めは何をやればいいのか分からず、自分は邪魔にならずに役に立てるのか心配と不安の気持ちでいっぱいでした。しかし、ベテランのボランティアの方たちのおかげもあり、何とか無事に仕事を終えることができました。かんじんのどのようにしてホームレスの方と話せばいいのだろうと悩んでいるうちに、あっという間に時間になり、終わってしまいました。

またこのような機会があったら、次はもっと積極的に接したり仕事ができばきとできればいいなと思います。今回参加したことで、私なりに得ることがたくさんあったと思います。

1. 夜回り12月6日(水)

先月は夜回りも土曜の炊き出しも参加できなかったの、多少気をはって出かけました。久しぶりの薬膳カレーにありついた後、Iさんと20時10分に出発。空気が乾いている晩でした。息子さんは？最近は大いぶ会話が分かるようになってきたようで、先日の手紙に、「クソガキを時々なぐりたくありません」とありました。下の7歳の息子のことです。Iさんは返事に困って笑っていました。国際センター裏のベンチにいる人はきょうは起き上がって寒そうにしていたが、きょうも返事が返ってこなかったの、声がけとすべきことだけして離れました。その足で橋下の奥まった洞窟へ上から声をかけ、Iさんに待ってもらって下りて行きました。ライトで照らしながら一歩一歩近づき声をかけると、ハイと返事が返ってきました。おじいさんがムクツツと首だけ持ち上げて、ドウモドウモと繰り返します。ずーっとここですか？昼間外に出ていますか？炊き出し来たことありますか？……それらを聞きながら案内とおむすびを手渡しました。息を上げて橋のたもとで待っているIさんのもとに戻り、行ってよかったですと告げました。旧図書館のHnさんは元気。陸橋下のOさんも変わりなし。84kgあった体重が65kgになっちゃった。今また新米が出回っている時期で、古米が捨ててあるので助かる。ついこの間も10kg拾ってきた。そう言って喜んでいました。大きな石碑の裏は不在。荷物だけ。道路をはさんだ陸橋下に行くと、ゴミの中から人が起き上がりました。Iさんが味噌スープをつくってさしあげました。帰り路、また人が変わっていましたねと言うと、あらそうだっけ？ はい、Smさんではなかったです。入れ替わりはよくあるんです。コースの最後の陸橋下テントハウスからは常連の3人が出てきた。みそスープを取り分けるものを出してください、とIさんがポットのふたを開けると、これ汚いもんやあなど互いをしやかしながらフライパンだの鍋だのが出てきました。直接出会えた人がきょうは8人でした。

2. 炊き出し12月9日(土)

天気予報がはずれ、小雨模様の寒い日でした。学校からはいつものMと教え子1人参加。後期テスト直前なので他は声もかけませんでした。しかし、以前生徒と一緒に参加してくれた保護者の方が1人来てくれました。大変うれしかったです。現場の五橋公園では、ずっと天気との相談をしていましたが、結局テントを5~6人で持って傘にしながら衣類配布を強行しました。49人(女性一人)の参加でした。きょうの特別メニューは、温かい鮭の粕汁でした。

この日の夜には、元寺教会で苦米地サトロによる炊き出し支援コンサートが行われ、たくさんの人が来てくれました。

3. 献品など

献金 2,868円……小学校

献品 今回も5kgのお米をはじめ味噌、梅干し、海苔などの食品とセーター類や靴下など小学校の保護者の方々からたくさんいただきました。また高校の職員からも預かりました。わたしのミスで詳細な記録をとる前に、他から来た献品類と一緒にになってしまいました。すみません。気をつけます。今年も毎月本当にご協力ありがとうございました。いつも活動の力になっておりました。折にふれ、来年もよろしくお願ひします。休みをはさむので難しかろうと思いますが、年末年始と1月のお知らせをします。

12月31日 18時から 年越し蕎麦の炊き出し。

1月3日 9時から 正月餅つきの炊き出し。

1月10日(水) 18時から 夜回り 13日(土) 9時から 炊き出し

19日(金) 18時から 萌友の炊き出し

1. 夜回り 1月10日(水)

年末年始には行けませんでした。この日到着するとすぐにWさんから、「(いつもの相棒の) Iさんは親御さんのお世話できょうはお休みです。それで急な話ですが、きょうは読売新聞から夜回りの取材申し込みで二人来ています。その一人を同乗させてご同行をお願いします」と言われました。「はあ…」と答えてともかく同意。薬膳でないカレーが申し訳ないけどとてもおいしい。私のコースは、Sさんという北仙台教会の信徒会長と、K Jさんという飛び入りの若者で、学生かと思ったら会社員でした。それと、Kmさんという30代の読売の新聞記者でした。カメラは難しいと思う、とWさんに言うと、「撮るときはご自分で頼むでしょうから」と。まあ、ノープロブレムでしょう、と私もその場はすませました。

私たちはまず国際センター裏の橋の下の洞窟に向かいました。Sさんへ「ここで待っててください。K Jさんも行きますか?」「はい」電灯を頼りに恐る恐る急斜面を下ってゆくと、後ろからKmさんも付いて来たのでちょっとびっくりしました。「大丈夫ですか?靴が汚れて滑りますよ」「平気です」…考えてみれば、彼らは私よりもずっと若いのでした。寝ていたSkさんを起こして、しばらく三人で話しました。「何時頃からここにおいでですか?」「6時頃だねえ」おじいさんの明るい対応がKmさんは気に入ったようでした。やや息切れしながら橋に上り、「私らは趣味みたいなものですが、お仕事とはいえ、ご苦労様です」と言うと、Kmさんも「いやあ、私も半分趣味みたいなもんです」と返し、一緒に笑いがおこりました。西公園のHnさんお変わりなし。Oさんはカメラ拒否。そして予想通り饒舌だった。「いろんな事情あっているのだから…ダメダメ」と。去年の80キロから今の60キロになった話をはじめ、いつもの雪かきのアルバイトもこの冬の暖冬でさっぱりだ。陸橋の上で若い奴らが嫌がらせをする。憲法25条の生きる権利と27条の働く義務の話。新聞記者と聞いていつもより饒舌の限りを尽くしていました。やっと切り離れて、向かいの陸橋下、Smさんへ。一ヶ月前よりさらに山のような荷物に埋まっていました。雑誌の段ボールが主。ゴミの中からすすけた顔が浮き上がりました。さしあげたゆで卵が段ボールの間に落ちてご本人が大あわてです。懸命になって拾い出しました。スープをありがたそうに受け取りました。炊き出しは行きにくい。おれは酒でこうなった。だいが警察のやっかいになったもの。あそこ(五橋)は隣が警察なのがよくない。聞きもしないのにいろいろ話していました。「じゃ今度場所について話しておきますね」「はいお願いします」橋下ハウスに残りを全部置いてきました。Kmさんはそこでもカメラを拒否されていました。帰りは駅で降りし駅方面のWさんたちと合流するそうです。

2. 炊き出し 1月13日(土)

43人の方が来訪。Mが生徒と参加。

3. 献金 1, 490円(高校職員)

献品 高校職員2件

女性もの衣類27点 セーター・オーバー類15点 ワイシャツ4

ジーパン4 洗面用品34点 米5キロ

2月は10日(土)が炊き出しです。献品等ありましたらお願いします。

1. 夜回り 2月7日(水)

帰宅が遅かったので、軽く食事をして30分寝てから出発し、8時に着きました。8時10分にはすぐ出発しました。Wさんから本日の相棒にと言われたのは、「足がご不自由で車の中においでになるかもしれない」というI rさん(ご婦人)とSmさんは元気そうな若者で、お二人とも初めての参加という元寺の信者さん。もう一人のKmさんはベテラン中のベテラン。何しろ最近までホームレスをしていたので、この活動では歩くナビゲーターでした。Hさんのお世話で路上を脱し北山に住んでいて、以前よく西仙台教会にも『THE BIG ISSUE JAPAN』を売りに来ていて私も買ったことがありました。炊き出しの時も必ず手伝いに来ます。きょうはHさんから「カレーがたんと食えるよ」とだけ言われてきたそうです。ネアカな彼はおかしそうにそれを繰り返しました。さもありなん、はめられましたね、と言ってともかく出発です。話し好きの彼は、車中ではむかし取った免許を再発行してもらうために今7回テストを落ちている話にはながさきました。

最初はいつも国際センター裏のベンチに向かいます。I rさんの意思を聞くと、歩くというので、一緒にゆっくり行くことにしました。足が不自由な様子でしたが、そのことは何も尋ねませんでした。ベンチの方は起きて一服していましたが、私たちを寄せ付けませんでした。しつこく話しかけたくなかったのですぐに失礼しました。

「いろんな人がいるから」と、Kmさんが後から慰めてくれます。橋の上でI rさんに待ってもらって、三人で洞窟を目指して急斜面を下ってゆきました。「どうもね。どうもね。ごくろうさまです」Skさんが繰り返していました。戻る急坂をSmさんがジャンプしたのを見て、私はややあきれました。そうだこの人たちは私よりよっぽど若いのだ。

西公園のHnさんへ。「久しぶりです」Kmさんの挨拶でとおりました。OさんにもKmさんの声を通じたようでした。こんばんは高橋です、と言って、ハイと返事があってもなかなか出てきませんでした。先月いきなり新聞記者を連れてきたからだと思いました。でもKmさんの声には反応したようで、様子をうかがいながら出てきました。「きょうは新聞記者はいないから」と言って、みんなで大笑いしました。それから、憲法25条と27条の話。センター入居と労働の拒否の話。毎日12キロの散歩と食料さがしのこと。……56歳。この人の人生はどこへ向かうのか。元気なうちは社会と歩んできた道に気をはって抵抗し続ける。一度本当にゆっくり話したいと思いましたが、今は次があるので離れました。Oさんが超元気なら、もう一人の陸橋下ハウスのSmさんは空元気。ますます段ボールのゴミの山がふくらんでいました。遠くから「おーい、いますかあ?…夜回りです。…炊き出しのあんないです。」と声をかけじっと待っていると、だいぶ間があって「ハイ」というような声が出て、奥の段ボールがかぱっと動いて開きました。キャッチボールのようにしておにぎりやゆで卵、ホカロンを投げ渡しました。最後に味噌スープを互いにぎりぎりまで手を伸ばし合って受け渡しになんとかセーフ。「市の指導がうるさくてね」「そりゃそうでしょう」とやりとり。

I rさんの歩行の調子を時々忘れてしまうものだから、これはいけないと途中から前を歩いてもらうことにしました。結局最後までI rさんは車で待機することなく私たちと一緒に歩き通し、野宿の方と私たちとの出会いに参加しました。入れ替わりの多い橋下ハウスはきょうは二人でした。SnさんとStさんに残りのおむすびをさしあげて、引き上げました。

月に一度で、しかも最初で最後かもしれない出会いとふれあいに、それはこの活動をするボランティア同士も同様なのだと思いながら、この日の晩も一緒に何かを感じながら受け取って歩いたことに、感謝します。

2. 炊き出し 2月10日(土)

行くつもりが、体調をくずして病院へ。Mと生徒が参加しました。報告によると、朝からの雨で衣類配布は中止したそうです。萌友の炊き出し(第3金曜日18時~福祉プラザ9階)で配ると思います。

3. 献金 5,000円(高校卒業生) 6,945円(本学院小学校炊き出し支援募金)

4. 献品 高校1件 本学院小学校保護者多数

オーバー1 海苔10枚×18 お茶1袋 砂糖1袋 カボチャ大1個 ジャガイモ4個
米5キロ1 3キロ7 1キロ1 洗面セット1

いつも大変ありがたく思っております。お預かりしたものは、一つとして無駄にせず炊き出し活動に大切に活用されております。また次回ご協力できるものがありましたら、よろしく願います。

次回は3月10日です。

1. 夜回り（3月7日）

冬らしく、凍えるほど寒い晩でした。風邪気味で少し寒気がするので、ホカロンを腰に付けてゆきました。きょうは万難を排しても行かなければなりません。ある青年と6時半に元寺の入り口で待ち合わせしていたからです。前の日曜日久しぶりに教会へ行ったところでTさんにつかまって、「息子が昨年末に仕事を辞めて戻って以来外へ出ない。煙草を買いに出るだけ。ご飯の時に顔を合わせるぐらい。夜回りに誘ってくれないか？」と。返事に窮している間にも、Tさんの目に涙がたまっていました。ともかく電話することを約束しました。すると、行ってみてもいいという返事が本人から返ってきたのでした。……現在23歳の青年も中学生の頃教会活動に加わっていたということで、常連のボランティアのご婦人方の中に臆することなく入っていました。そして促されるままに初めてのおむすびづくりに挑戦。ボールばかりできてゆきます。「自分の握ったおむすびって食べたくないよね」私がかからかいました。「そうですね」彼はこの3年あまり清掃業者の寮生活でした。仕事はきつい。三日寝ないことも。同僚は年配が多いが、経験数から一番年下の彼が責任者。ストレスがたまりまくった。今日の夜回りの相棒はこの青年と北仙台教会のI tさんでした。

崖下のS kさんは変わりなく元気でした。「もうどれくらいいるんですか？」「一年半だねえ。前誰かここにいましてね」「ここは大変じゃないですか？川の側で寒いでしょ」「いや、ここは冬は暖かいし、夏は涼しい、虫もいないんですよ」「なあるほど」

Oさんの所へ行くと、自転車が盗まれたと行って騒いでいました。それが、シケモクを探して目を離していた隙だったそうです。「でもまた別のを手に入れたけどね」近くのH nさんは出て行って不在でした。「センターよりアパートがいいよ、て勧めたんだ」「ふーん、Oさんは？」「僕はマンションがいいな。花火も見えるし」しかたがないのでみんなで笑いました。「来月もここにいそうですね」と私。

もう一人の陸橋ハウスのS mさんはいっそう荷物も多く、かなりはみ出していました。献金を100円ももらいました。ホームレスからもらったのは初めてでした。

今夜出会えた人は3人でした。過去最少です。「少ないと寂しく思うのでなく、みんなアパートなどに入ったのを喜ぶべきですね」とはI tさん。本当にそのとおりです。「すごいですね。みんな明るかったですね」とは青年の感想でした。

2. 献金2件 2,000円（高校職員） 3,400円（高校職員カレー炊き出しチャリティ）

献品 高校職員1件 小学校保護者の皆さんから

冬物オーバー類4 ワイシャツ7 米2キロ×2 1キロ×1味噌2パック

4月は14日に炊き出しがあります。いただけるものがありましたらお願いします。

1. 夜回り（4月11日）

きょうは昼間暖かでしたが、夜は寒い晩になりました。先月に続いてT君と待ち合わせていました。その前の通勤の朝に、向こうから歩いてくる母親に偶然校門の前で出くわしました。むこうも勤め先へ歩いてゆく途中でした。「先生、また（息子を）夜回りに誘って」、と彼女が話すその後ろに、だれかが立っている気配を一瞬感じた気がしました。「えっ？ ハイ…」

突然変なことを言うかもしれませんが、神さまがふっと見える気がすることがあります。重松清の小説に、二人の息子と妻の死をみとる作品があります。その中で「人間は神さまよりも優しい」と主人公が語る一節がありました。そのことばに出会ってから、長いことその通りだと思いながら、その意味について考えていました。人間は神さまよりも優しい。そう思える瞬間が確かにある。そして、そう思う人間を神さまはお造りになったのだ、と思うに至りました。神さまという呼称は、人によってさまざまでしょう。でも、だれかが用意してくれたとしか思えないことに出くわすことがあります。ご先祖さまかも神さまかもしれません。そのことを夜回り前夜に思い出して、電話したら、ハイ行きますというT君の返事でした。

遅れて着いたら、彼はおむすびを握っていました。だいぶ慣れた手つきでした。「まだ家で充電中ですか？」「ハイ、でもそろそろと思っています」とニヤニヤしています。「そうね、そろそろ動いたらいいよ、コンビニでもなんでも…」「いえ、調理をやりたいんです」「調理？いいねえ、手先が器用だしすぐ上達するよ」おせじでなく言うと、まんざらでもなさそうでした。

いつもにまして辛みのある薬膳カレーをいただいているときに、Hさんの声がしました。「西公園の陸橋下のSmさんがいなくなったよ」「え？」「公園課（市）が段ボールを全部排除してさ、（職員が）救おうと思ったけど、リヤカー引いてどこかさ行っちゃったど」ショックでした。

国際センター裏で冷暖房のきくという川沿い洞窟に住むSkさんは、変わらずのお元気でした。西公園は花見の提灯でどこも照らされています。Hnさんに寄った後、Oさん『宅』へ。道路を挟んだ同じ陸橋下のSmさんのことは知っていました。「今度はわたしでしょう。出てってほしいのは間違いない」「花見客がうるさいでしょう？置いて行ったものとかは調達するんですか？」「いやいや、バットマンが明け方公園の中央に陣取って食べているんです」「あのお婆さん？」「はい。ところでワイン飲みますか？」「え？」「いろいろいっぱいあるのよ。」「でも賞味期限は？」「そんなのないでしょう」といって二本持たされました。

テントハウスはビニールがはがされて家財道具の残骸がむき出しになっていました。「皆さんが住まいに入ったということなので、寂しく思っちゃいけませんね」と、独り言をもう一人の同行のIさんにももらしました。Smさんのいた後は周囲が針金で嚴重に仕切られ、『侵入禁』の貼紙がしてあります。神社の方から騒ぎ声が響いてきました。まだ寒い夜の花見客を当て込んで作ったでかいビニールハウスの敷席からでした。桜といってもまだつぼみ。大騒ぎが目的のグループがいくつもの中のテーブルを陣取っていました。入り口には『いかなる理由でも入場した場合5000円いただきます』と貼紙がしてありました。時間は九時をとうに回っています。私たち三人は興味半々で大テントの周りを一周しました。中は三台の大型ストーブをガンガン焚いていて、赤子がゴザの上を転がり回っています。今夜の出発の時から頭の中にポカーンと穴が開いていたのは、Smさんのことでした。それが花見客のテントの外で、今は無性に腹が立っていました。アパートでもセンターでもなくリヤカーを引いたSmさんがどこかへ消えて行った。手を伸ばしあっておむすびやゆで卵を渡し合うことも、味噌スープをおっかなびっくりで取らせることももうなくなりました。ホームレスは一度いなくなると所在がわからなくなることが多くあります。それでも公園課はホームレスを助けていると公言しています。大きく息をついて、気を取り直して帰ることにしました。

帰宅してワインの報告をすると、「分町のホストクラブが捨てたものにちがいない」だの「飲んでではダメだ云々…」と家の者たちにさんざん講釈されて、結局二本とも飾ることになりました。

2. 炊き出し（4月14日）

50人ほどの参加者。Mが卒業生を連れて参加しました。

3. 献金

7,952円（本学院小学校炊き出し支援募金）

5月12日炊き出しがあります。献品などありましたらお願いします。

1 夜回り 7月11日(水) 雨

6月は行けなかった。仕事の部活(剣道)で泊まり込みで石巻にいた。後から西仙台教会に通っているMから「T君のところからまた夜回りに誘ってください、とのことでした」といわれ、「6月はわたしも行けなかったんです」と答えた。

前晩に約束をし、夜7時過ぎに行くとT君はすでに作業のご婦人方の中で黙々と働いていた。「きょうは洞窟は無理だね」とはHさんとの挨拶。「ご息は顔つきがしっかりして(留学から)帰られましたねえ」とは、Wさんからのお声だった。わたしの方は、調子はどうですか?と、坊主頭にしているT君に声を掛けると、はいバイトをしています。ああ、何でした?清掃です。ああ、勝手に知ってやりやすいでしたね。週どのくらいですか?6日です。はあ、すごい。ところでその頭、いいなあ、楽でしょう?はい、夏は楽です。おれもしたいんだよねえ。……

菓膳カレーの後、Iさんと三人で出発した。「息子さんはお元気?」と気にしてくださる。また今度は中国の交流団に混じって8月に2週間ほど行くんだそうです。まあいいわね。持ち出しが2万円なので母親が渋々認めたようなものです。

国際センター裏ベンチの方におむすびと卵を置きながら声掛けして通った。橋の下の洞窟はうっそうと生い茂った木で見えない。ライトで照らしても雨に濡れた葉がキラキラ光るだけだった。ここは大変ね、とIさんが言ったが、いえここ(洞窟)は冷暖房完備なんだそうです、とT君。旧図書館でのHnさんは、もう蚊に喰われまくりだよと笑った。蚊取り線香を渡しながら、じゃあ土曜日に、と言うと、あいよと返事が返ってきた。橋下ハウスは立ち入り禁止にしてあった。Oさんの話。巡回員が毎日来る。公園課の職員は週に二回。道路を挟んだプール側もいるのはゼロだから、ここでは(Hnさんと)二人だけになってしまった。最近この周囲の雑草をきれいに刈ってくれた。ほんとはこれも刈り取りたいらしい、とニヤニヤしながら自分のことを指さした。息子さんは?と早速質問が出た。答えたのちに、衣と住はなんとかなるが、食に困っていると繰り返すOさん。余った米袋を追加した。来月は祭りの最中ですね、と言うと、ええそうだけ?それなら追い出されるなあ、とすかさずケータイを取り出してスケジュール表を見ていたので、すごいですねえ。でも充電は?と言うと、電池。中にテレビもある。すごい文化的ですね。そう。だから一番は食ね。でも、困っているとき必ず食料に出会う。不思議だねえ。……話が終わらない。Oさんは今日も元気だった。8月に会えなくとも大丈夫と感じた。

2 炊き出し 7月14日(土)

この日も試合が入って行けなかった。ところが、3年生5名からボランティアの申し出があり、M・Eに頼んだ。快く引き受けてくれ、最後の反省会まで一緒にいてくれた。炊き出しにやってきた方は25人程度とのことだった。

3 献金 5,841円(本学院小学校炊き出し支援募金)

献品 本学院小学校保護者

米5キロ(3) 醤油1.8リットル(1) オレンジジュース1本

福神漬け5パック タマネギ2個 海苔10枚 だし取り昆布袋詰め1

風邪薬1 正露丸1 パンシロン1 ポロシャツ1 Tシャツ2

献金、献品といいボランティアの申し出といい、わたしは涙がこぼれた。4月のまとめを通信に出したきり、5月のまとめもせず仕事に追われるまま面倒さも重なり流してしまっていた。

だから7月は誰にも頼みなくともまず自分が行ってからまた仕切り直そう、頼み直そうと思っていたら、小学校はとうに時期を察して献金と献品を集めていた。高校生たちは、以前連れて行った何人かが仲間を集めて申し出てきた。働きかけなくてもちゃんと時期を知っていたのである。5月以降さぼっていたわたしの心は揺れて、その気持ちのありがたさに涙が止まらなかった。どんなときでも基本的には続けてきたわたしの活動が外から支えられていることがまた確かめられた。人はどんなに優しいのだろう。厚意や打算では続かないものがわたしを突き動かし、そのありがたさがことばで言い尽くせない。ありがとうございました。

次の8月は休みに入ります。また、9月にお願いします。

昨年のご協力に対し感謝いたします。本年もよろしくお祈りします。

この通信はすっかりご無沙汰いたしておりました。すみません。前回のVOL 2 5を見ると、なんと平成19年7月になっていましたから、この間ずいぶんサボったものだといながらあきれま

す。
夜回りへの参加は続けていました。小学校や幼稚園を中心に献品や献金のご協力も続けられ、その都度届けておりました。本当にありがとうございます。毎月のお気持ちをとてもありがたく受けております。

この半年あまりの状況を逐一報告すべきところですが、省略させていただきます。

仙台のホームレス人数は確実に減少しました。2月から私の夜回りコースに、勾当台公園が復活しました。通常の夜回り先に人がいなくなったからです。国際センター裏のベンチの方と、その橋の下の洞窟にいる70歳のSkさんはずっと変わらずお元気です。もう2年半洞窟で暮らしています。いつ行っても「ここはいいですよ。夏は涼しく、冬はわりあい暖かい。」「大変な時はないのですか?」「台風の時は大変です。風と水かさが襲ってきます。」「それは大変でしょうね……」としか言えない。旧図書館のある西公園は、現在ついにOさん一人になりました。でも彼は、いつ行っても元気です。復活した勾当台の音楽堂には、7人が自炊しながら寝泊まりしていました。カセットボンベやお米をごっそり置いてきました。

毎月第2土曜日12時の五橋公園炊きだしも50人前後になっています。

私が携わっているこの活動は、現代のさまざまな状況の中で社会生活からリタイアした人たちに「御身を大切に」というメッセージを伝え、社会復帰を支援することです。食事や衣類を提供し、相談事を聞く炊きだしの重要さもさることながら、おやすみになっているところを訪問する私が夜回りにこだわっているのは、そのことにあります。そのなかには、洞窟のSkさんやOさんのように炊きだしには一度も来ない人たちがいるからです。

炊き出しは今年も毎月第2土曜日です。第3週の金曜日には活動の姉妹団体『萌友』炊き出しもおこなわれています。その責任者Hさんには高校のマリア祭で一度講演をしていただきました。高校生の炊き出しボランティア体験参加に、今後もはたらきかけをしていきたいと思

献品や献金はいつでも届けられますので、よろしくお祈りします。

—炊き出しボランティアに参加して—

今回初めて炊きだしを経験しました。ボランティアの前夜は何をどうすればいいのだろう?などと不安でした。でも皆さんが温かくて「何をしたらいいですか」と聞くとちゃんと答えてくださったので、参加できた!と実感をもてました。路上生活者の方々もものすごく親切で知識が豊富だなと感じました。今回の体験を通してうれしかったのは、路上生活者の方々がおいしく食べてくれて「ありがとう!」「ごちそうさま!」と言ってくれることでした。人の温かみを感じた一日でした。

(平成19年11月10日 2の1 S)

夜回り通信VOL27 2009年 4月

ここまでのふりかえり

- 1 2008年3月31日 大晦日の炊き出し in 榴ヶ岡公園 at 12時
寒風吹きすさぶ中、ビニールシートで風よけをつくり、年越し蕎麦・うどんの炊き出し。約50人の方がお出でになった。テレビの取材が入り、選挙を意識した立候補予定者が入り込んできて前を陣取って活動なさっていたのには、やや辟易した。
- 2 2009年1月3日 正月餅の炊き出し in 五橋公園 at 12時
某党の衆議院議員や立候補予定の元天気予報士などがお出でになり、カメラの追っかけがうるさかった。
- 3 2月の夜回り (2月11日) 久しぶりの夜回りに状況もすっかり様変わりしていた。国際センター裏手の川沿い洞窟を快適空間にしていたSkさんは工事のために追い出され、Hさん達に相談してやっと萌友アパートに入れてもらって落ちついたとのことだった。それまでしばらくさまよっている間に、他のホームレスから数回暴力やイジメを受けたとのことだった。西公園旧図書館に流れ着いた口達者のWさんも、なんと萌友アパートに入っていた。「高橋さん(私)に宜しく伝えてくれ」と聞いた。入居時の面接では、2時間一人でしゃべりっぱなしだったそうである。さもありなん。何があっても不変に見えるのは公園陸橋下のOさんであった。……
- 4 2月の炊き出し(2月14日) 公園に集まった路上生活者45人。(女性1) 春一番の寒風の中、また議員がぞろぞろお出でになった。この日は某党の代表代理が来仙して街宣活動の後立ち寄られた。取材テレビがゾロゾロともものものしい。私たちの行っている炊き出し活動や募金活動について、テレビの取材が入らなければ興味がない又は意味がないと思われる良識ある方もいる。現場を一度でも見て下さったら本当はありがたいと思う。わたし自身は、「ボランティア活動制度」の効果もあって、生徒が継続的に参加するようになったことを喜びとしている。
☆小学校・高校から衣類と食品の献品多数。☆献金…高校卒生(1.5万)、高校職員(2千)、修道院(1万)、他(5千) ☆ボランティア高校生4人。
- 5 パレスチナガザ地区緊急救援街頭募金～2月15日・22日 11:30～13:30
炊き出しの母体である正平協から「貴校の生徒さんにご協力いただけないか」という要請が来たもの。放送部員とボランティア同好会の生徒ら(顧問の呼びかけによる)の協力を得た。参加は、15日3人、22日10人。両日とも正平協の方達(おじさん、おばさん方)に制服姿で交じて寒風の中「ご協力お願いします。」の声を張り上げて頑張った。すばらしかった。2年生の放送部はずっと拡声器でやってくれた。募金活動の難しさや街頭の人のあたたかさや直接ふれる機会でもあった。募金額 15日—62,813円。 22日—93,163円。

……活動後に生徒達に提出させている報告書を見ていつも気になることがあり、ボランティアに入る前に集めて話すことにした。「このボランティアでホームレスの方と話をすることができるかどうかはそれほど重要ではない。炊き出しの準備手伝いや現地での配布係などに精一杯参加することが一番。その中で社会にふれ、自分の身の回りを振り返ったり進路について考える材料になってくれればよいのだ。」と。
- 6 3月の炊き出し(3月14日) 公園に集まった路上生活者57人。(女性1) 不定期就労者の方が金が尽きると増えてくる。正平協スタッフの注意が気にくわなかった酔っぱらいが一人声を張り上げて怒鳴っていた。やっと静めたもののイライラの気持ちも分かるので、その場がシュンとなった。そのことは後の反省会でも出た。☆ボランティア高校生8人。
- 7 4月の炊き出し(4月11日) 公園に集まった路上生活者47人。☆ボランティア高校生8人。
反省会での私の言「以前と違い一回限りの参加型でなく、継続的に参加する生徒が増えてきてうれしい。」

(文責 高橋 寛)

夜回り 5月6日（水）20:30

西公園旧図書館 5~6人の方が待っていた。旧図書館は予算の関係で、取り壊し工事が再来年になるとのこと。それまではとりあえずそのまま。

陸橋下のOさんは元気。ホームレス日常生活の講習を受けた。

①1~3月は、地図をもとにした食糧回収計画にそって寸暇を惜しんで、それこそ睡眠を削って拾って歩く時期。缶詰・味噌・穀類……。世間の皆さんは、消費期限についてよくご存じないから、まだあと半年も保つものとかでもよく捨ててくださるのでありがたい。4~5月はこちらの休息期なのだが、今度は世の中（公園）がうるさくなって眠れない。花見に植木市に……。それはここに住んでいるから仕方ないと、私は思うんだけど。）②あの人たち（旧図書館の急に増えた人たち）はテキ屋だったが寝場所がないのであそこにいる。③電池式の携帯のいいのをせっかく手に入れたのに、目を離している隙に充電器を取られてしまった。…… Oさんは元気だった。

炊きだし 5月9日（土）12:00

五橋公園にお出でになった路上生活の方51人。

高校生のボランティア参加者6名。ボランティア同好会生徒中心で、1年生4人、2年生2人。全員炊きだし初参加だった。この日はボランティアスタッフが少なく、生徒たちは大忙しの使われ方をした。よかったと思う。

なお、本学院小学校保護者からいつものように大量の食品と衣類の献品をお預かりした。ありがとうございました。

参加生徒のおもな感想

○初めて参加したのでどんなことをするのか不安でしたが、ボランティアのおばさん方の指導でいろいろ手伝わさせていただき、貴重な体験ができたので本当によかったです。ホームレスの方たちから声をかけてもらったとき、私は逆に元気をもらいました。わたしたちが楽しく生活しているのに、ホームレスさんたちはあまりよくない状態だと思うと心が痛いです。他の人にも知ってもらい興味をもってほしいと思いました。

（1年 K）

○今回初めてボランティアに参加して、全てが初めてで内容が思っていたより大変でした。けれどホームレスの方々に「ありがとう」と言われたとき参加してよかったと思いました。とてもいい経験ができたと思います。

（1年 C）

○ホームレスの方々とこの様な形で触れ合い話したということで、私はとても元気を貰いました。51人の方々は豚汁やおにぎり、バナナなど食べ物を貰ったときは本当に嬉しそうでした。衣類を渡すときも、一緒になって笑顔になれました。初めての体験だったので、トリック正義と平和協議会の皆さんにいろいろと迷惑をかけてしまいました。でもすごく元気を貰い楽しかったのでまた参加したいです。

（1年 My）

○私はホームレスという存在に抵抗がありました。人数も思っていたよりも多くて驚きました。でもホームレスの方と話をした時、全員ではないけれど、優しい方がいました。中には行方している方もいて、いろんな人がいるんだと思いました。この次は私の方から明るく接しようと思いました。

（1年 Mn）

○初めての経験で、少しとまどったこともあったけど、普段あまり接することがないホームレスの方々と一言だけでも話すことができよかったです。これからもいろいろなボランティアに積極的に参加していきたいです。

（2年 Mm）

〔W様宛 献品受取書発送依頼〕

W様

18.11.23 西仙台 高橋

昨日Faxにてお送りした原稿はあんなものでよろしいでしょうか？ A4の紙面を埋めるために私の報告書まで入れましたので、あしからず。最初のその部分はカットして下さっても全然かまいません。

先日の献金受領書の送付をありがとうございました。献品の内訳をお知らせしておきますので、もしまだでしたら、近いうちに受取書をお願いします。

献品 高校職員一件 E ホカロン60個×3箱

小学校保護者多数 (食品及び衣類)

米 10kg×1 4kg×1 3kg×2 2kg×2 500g×1
200g×1

醤油1本 コーヒー1ビン 味噌1パック 乾椎茸1箱80g

割り箸22膳 白子海苔3缶詰め合わせセット1箱

海苔10枚×4 梅干し1袋 梅ちりめん1パック

スティックシュガー詰め合わせ2箱

セーター7 オーバー1 ウインドブレーカー1

ワイシャツ1ズボン1 ジャンパー1

以上です